

2010年3月期
第3四半期決算説明会

2010年2月4日
ヤマハ株式会社

2010/3期 3Q決算の概要



3Qの外部環境

- 米景気は底打ちの兆し。欧州、日本は景気減速継続
- 法人向けビジネスは、在庫調整一巡し、上向き傾向
- 為替レートは円高基調に一服感

3Q(10~12月)の状況

- 対前年同期減収減益。対当初予想(4/30発表)では減収増益
- 売上高は、対当初予想6.7%(81億円)の減収。為替影響(+25億円)を除けば、当初予想に対し、8.8%(106億円)の実質減収。
対前年同期では、為替影響(▲20億円)を除いた実質ベースで3.7%(44億円)の減収。楽器、リビングが減収
- 営業利益は、対前年同期では減益となるものの、対当初予想では経費削減効果と為替益により、3億円の増益

1~3Q(4~12月)の状況

- 対前年同期減収減益
- 売上高は、為替影響(▲207億円)を除いた実質ベースで、前年同期比8.6%(318億円)の減収
- 営業利益は、前年同期比 52.8%(117億円)の減益。減収に加え、為替損(138億円)の発生等による

2010/3期 3Q業績概要



▶ 対当初予想減収微増益。対前年同期では減収減益

(億円)

	09/3 (3Q) 実績	10/3 (3Q) 実績	前年 同期比	当初予想 (09/4/30)	当初予想比
売上高	1,189	1,125	▲5.3%	1,206	▲6.7%
営業利益 (営業利益率)	89	64 (5.6%)	▲28.6%	61	+4.2%
経常利益 (経常利益率)	77	59 (5.3%)	▲23.0%	51	+16.4%
当期利益 (当期利益率)	50	38 (3.4%)	▲22.5%	36	+6.8%

為替レート

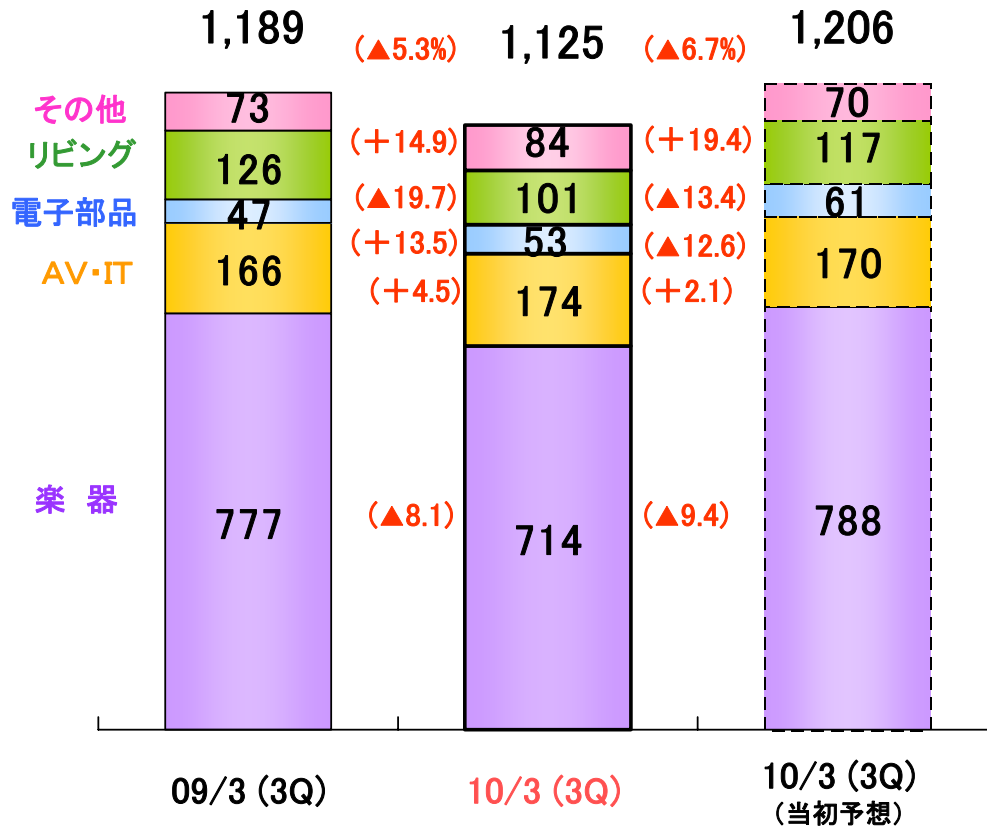
(円)

売上高	US\$	96	90	95
	EUR	127	133	120
利益	US\$	100	90	95
	EUR	163	133	120

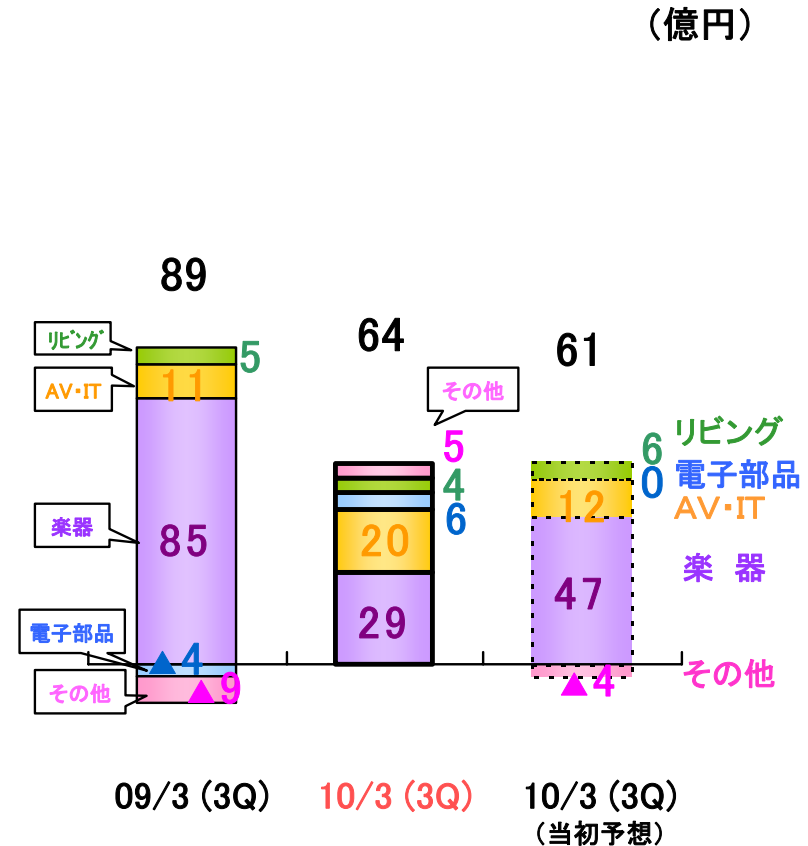
2010/3期 3Q事業別業績



売上高



営業利益



()内は前年同期比
または
当初予想比

	為替影響額
前年同期比較	▲20億円 (楽器▲14億円、AV・IT▲6億円)
当初予想比較	+25億円 (楽器+17億円、AV・IT+8億円)

	為替影響額
前年同期比較	▲50億円 (楽器▲39億円、AV・IT▲11億円)
当初予想比較	+17億円 (楽器+11億円、AV・IT+6億円)

2010/3期 1～3Q業績概要



▶ 対当初予想減収増益。対前年同期では減収減益

(億円)

	09/3 (1～3Q) 実績	10/3 (1～3Q) 実績	前年 同期比	当初予想 (09/4/30)	当初予想比
売上高	3,694	3,169	▲14.2%	3,331	▲4.9%
営業利益 (営業利益率)	222	105 (3.3%)	▲52.8%	74	+41.8%
経常利益 (経常利益率)	210	88 (2.8%)	▲58.2%	49	+79.3%
当期利益 (当期利益率)	93	30 (0.9%)	▲67.8%	17	+76.8%

為替レート

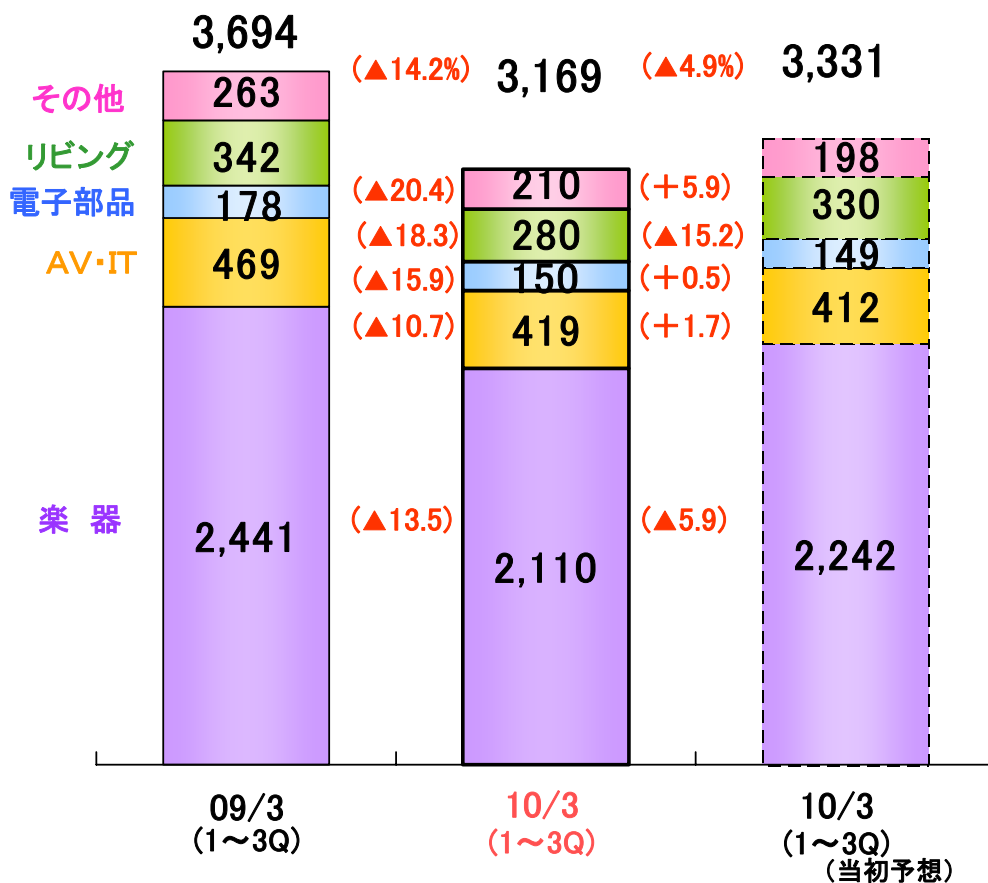
(円)

売上高	US\$	103	94	95
	EUR	151	133	120
利益	US\$	104	94	95
	EUR	159	130	120

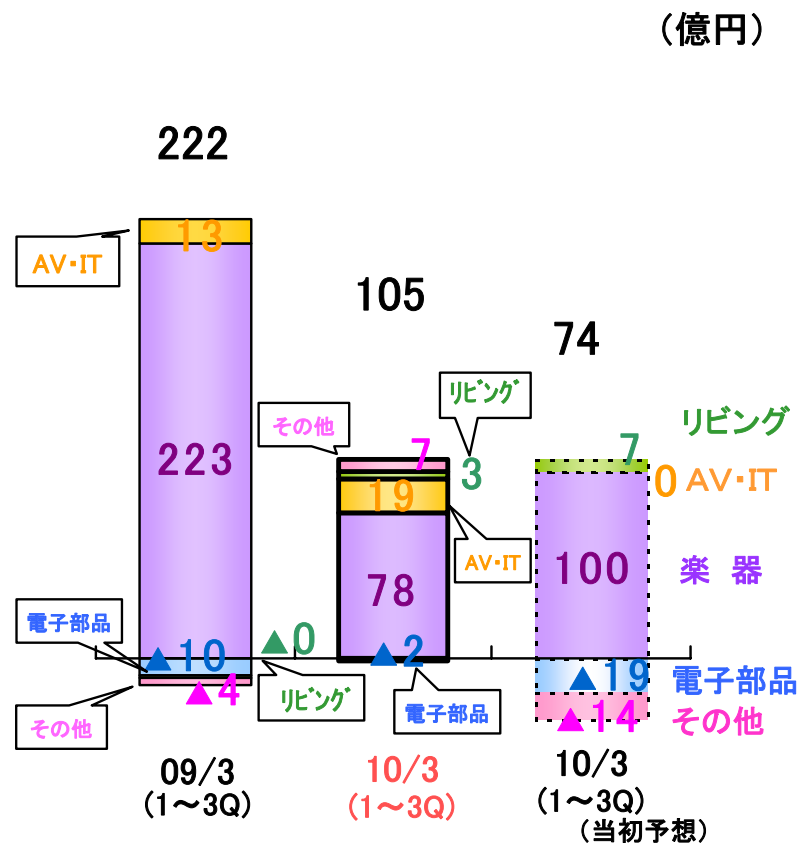
2010/3期 1~3Q事業別業績



売上高



営業利益



()内は前年同期比
 または
 当初予想比

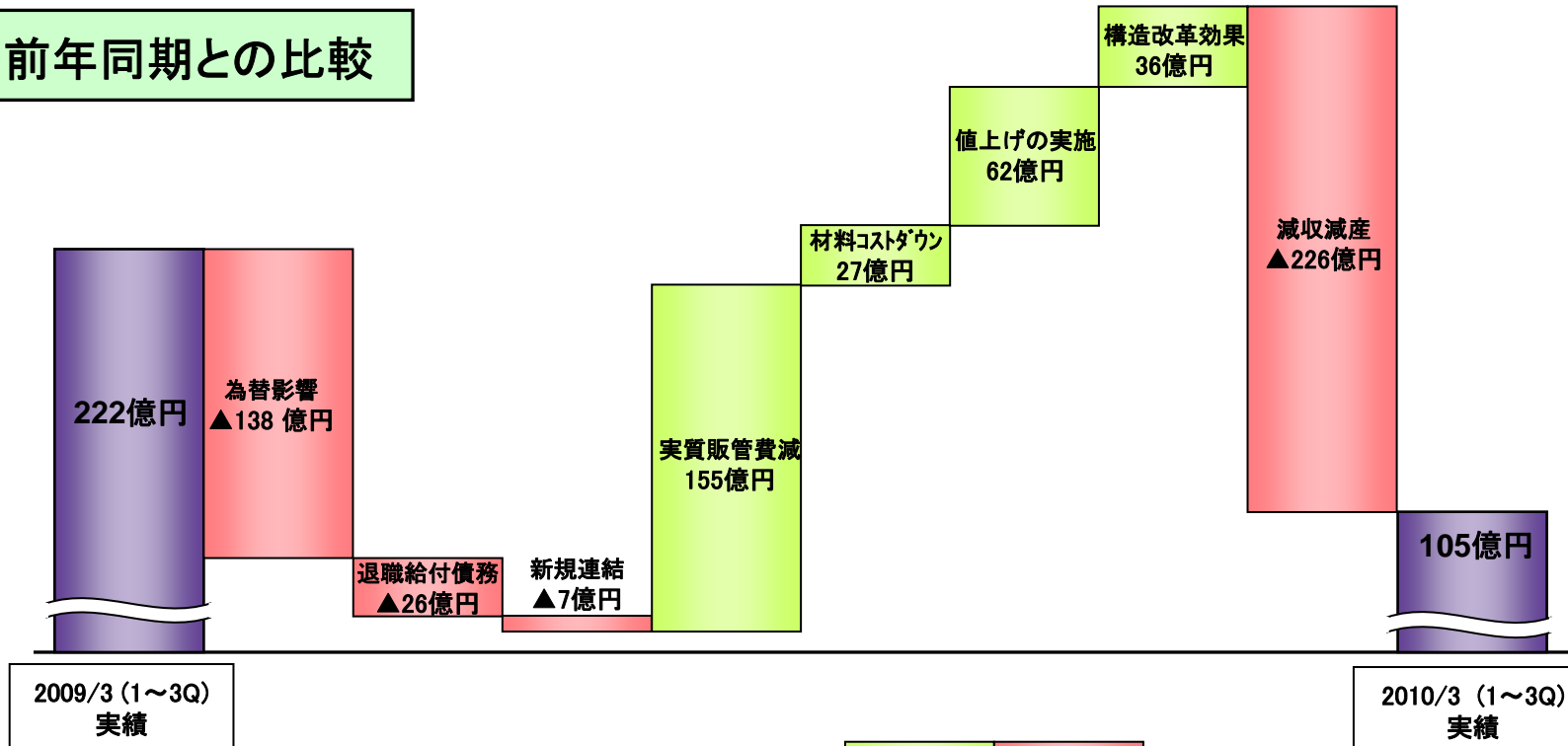
	為替影響額
前年同期比較	▲207億円 (楽器▲163億円、AV・IT▲44億円)
当初予想比較	+81億円 (楽器+61億円、AV・IT+20億円)

	為替影響額
前年同期比較	▲138億円 (楽器▲111億円、AV・IT▲28億円、電子部品+1億円)
当初予想比較	+44億円 (楽器+33億円、AV・IT+11億円)

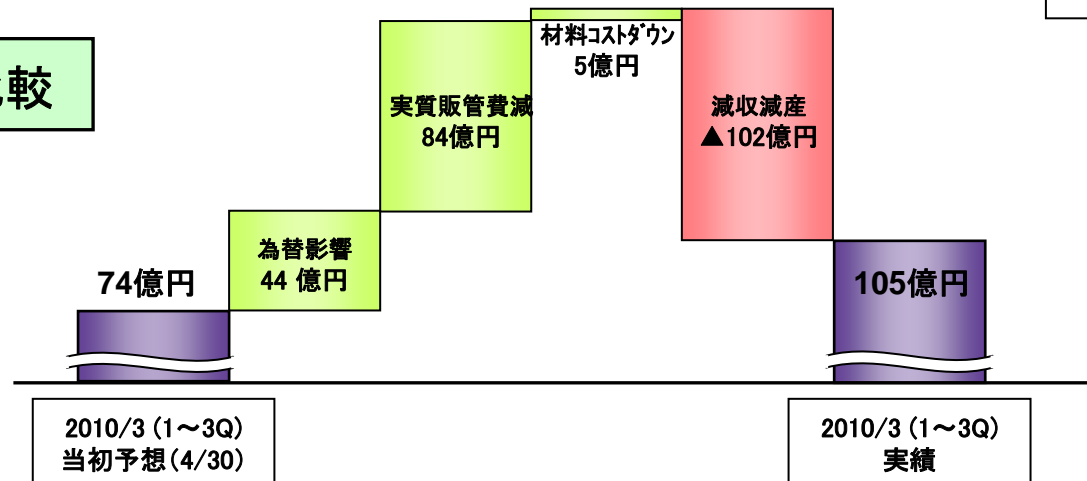
2010/3期1～3Q営業利益増減要因



前年同期との比較



当初予想との比較



4Qの事業環境

- 先進国市場を中心に景気回復遅れに伴う不透明感継続
- 為替は円高基調が定着

4Qの状況と施策

- 楽器は対当初予想減収に加え、ピアノ、管楽器の減産影響により営業益下方修正
- 法人向けビジネスの半導体、部品事業も受注減少が見込まれ、当初予想を下方修正
- 事業構造改革と収益改善施策の継続
- 次なる成長に向けての中期経営計画の策定

通期の業績見込み

- 通期売上高予想を下方修正。営業利益は据え置き。最終利益は15億円の赤字へ下方修正

・コア事業への集中

■マグネシウム部品事業からの撤退

- ・原則、当初予定どおり、3月末にて生産終了

■リビング事業の譲渡

- ・2010年3月末までに過半数の株式譲渡を予定
- ・2011/3期より、ヤマハリビングテック(株)を連結会社から除外

・楽器事業の収益力強化

-海外工場の強化と国内工場の役割見直し

ピアノ

■国内生産拠点の一元化(8月)及び海外調達部品の活用

■海外工場(杭州、インドネシア)での一貫生産体制の構築

…… 2013/3期を目処

- ・海外工場 …… UP中級品まで ; 国内工場 …… UP高級品、GP
- ・国内市場への海外製モデル導入

管楽器

■国内生産拠点の一元化と海外調達部品の拡大

…… 2013/3期を目処

- ・海外工場 …… 普及、中級管楽器
- ・国内工場 …… 高級管楽器、中低音製品(ホルン、チューバなど)

2010/3期 4Q業績予想



➤4Qは対当初予想減収減益の計画

(億円)

	09/3 (4Q) 実績	10/3 (4Q) 予想	前年 同期比	当初予想 (09/4/30)	当初予想比
売上高	899	961	+6.9%	1,059	▲9.3%
営業利益	▲84	▲45	—	▲14	—
経常利益	▲90	▲48	—	▲19	—
当期利益	▲300	▲45	—	▲17	—

為替レート

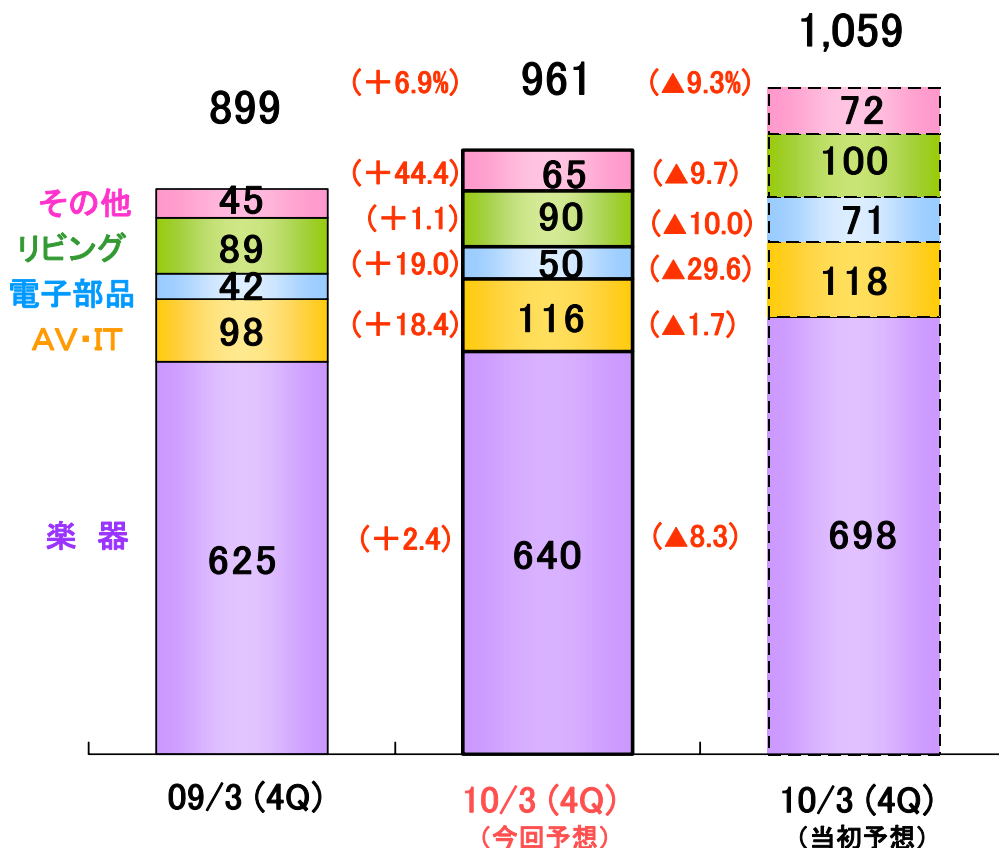
(円)

売上高	US\$	94	90	95
	EUR	122	127	120
利益	US\$	93	90	95
	EUR	128	127	120

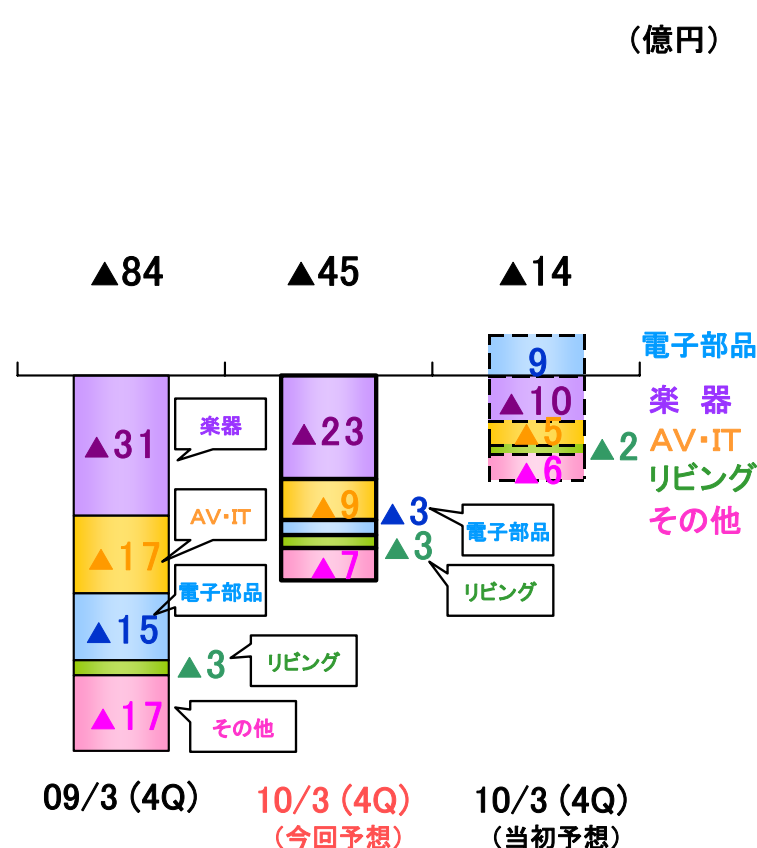
2010/3期 4Q事業別業績予想



売上高



営業利益



()内は前年同期比
または
当初予想比

	為替影響額
前年同期比較	+10億円 (楽器+8億円、AV・IT+2億円)
当初予想比較	+7億円 (楽器+5億円、AV・IT+2億円)

	為替影響額
前年同期比較	+8億円 (楽器+5億円、AV・IT+2億円)
当初予想比較	+8億円 (楽器+6億円、AV・IT+3億円)

2010/3期 通期業績予想



▶4Q為替レートは、US\$=90円、EUR=127円を前提

▶通期業績は当初予想に対し減収。営業利益は当初予想据え置き

(億円)

(%)

	1Q~3Q 実績	4 Q 予想	10/3期 (今回予想)	10/3期 (当初予想)	09/3期 実績	当初予想 変化率	前期実績 変化率
売上高	3,169	961	4,130	4,390	4,593	▲5.9%	▲10.1%
営業利益 (営業利益率)	105 (3.3%)	▲45	60 (1.5%)	60 (1.4%)	138 (3.0%)	0	▲56.7%
経常利益 (経常利益率)	88 (2.8%)	▲48	40 (1.0%)	30 (0.7%)	120 (2.6%)	+33.3%	▲66.6%
当期利益 (当期利益率)	30 (0.9%)	▲45	▲15 (-)	0	▲206 (-)	—	—

為替レート

(円)

1Q~3Q
実績

4 Q
予想

10/3期
(今回予想)

09/3期
実績

売上高

US\$
EUR

94
133

90
127

93
132

101
144

利益

US\$
EUR

94
130

90
127

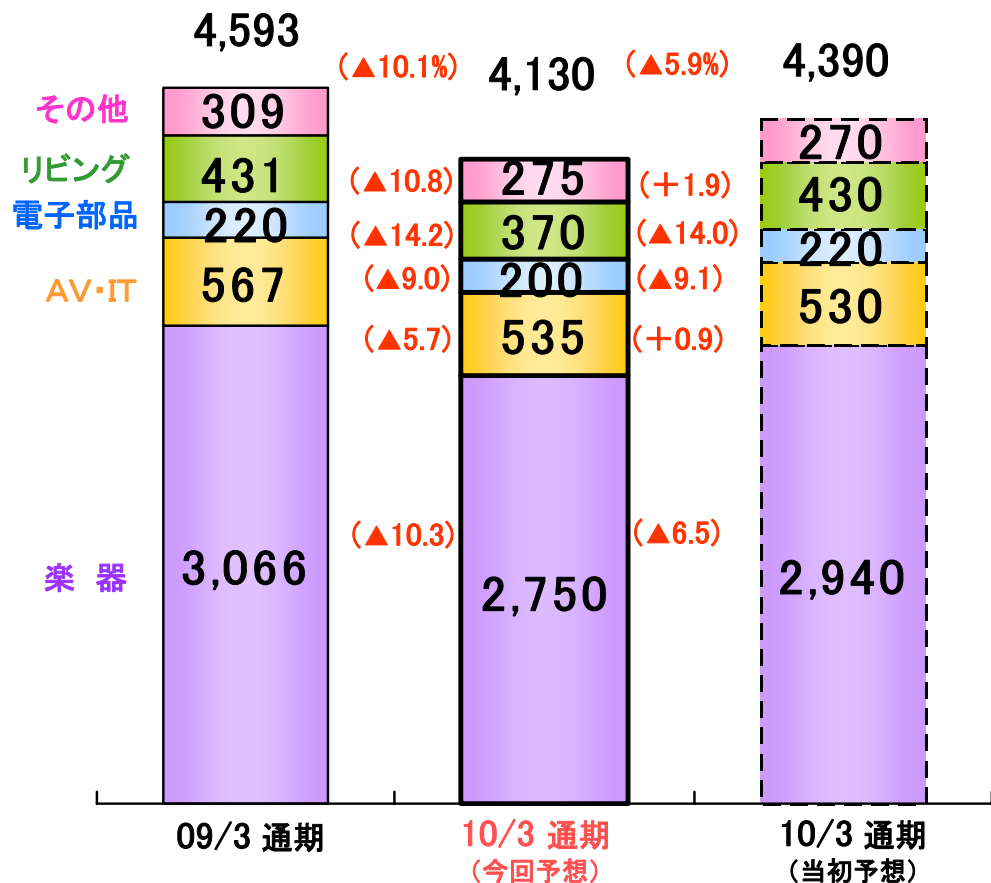
93
129

102
153

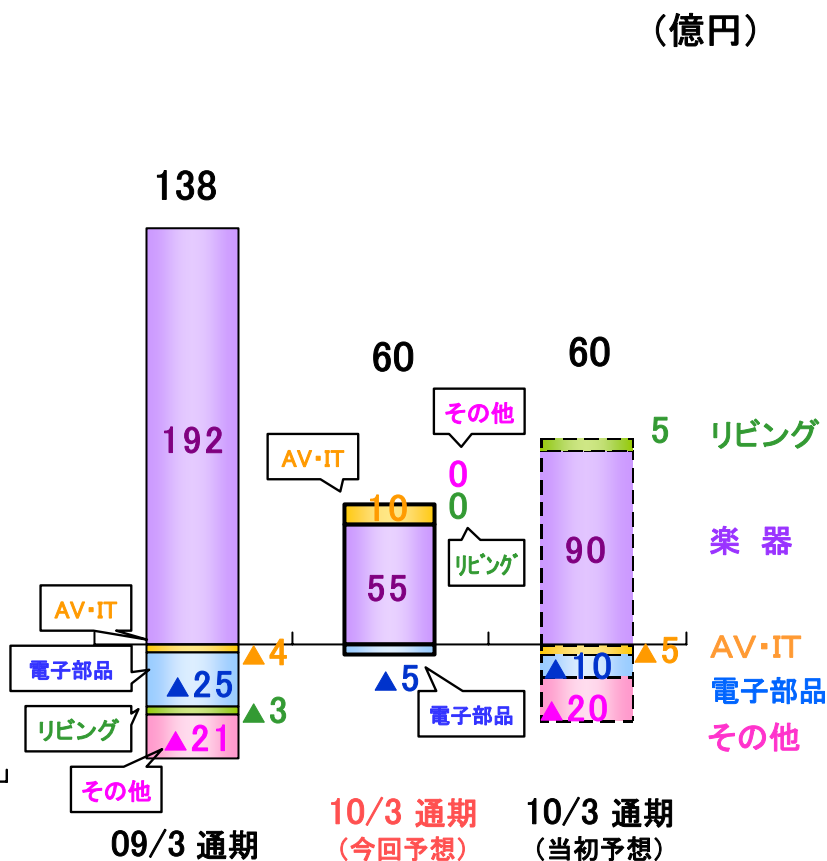
2010/3期 通期事業別業績予想



売上高



営業利益



()内は前期比
または
当初予想比

	為替影響額
前期比較	▲197億円 (楽器▲154億円、AV・IT▲42億円、 電子部品▲1億円)
当初予想 比較	+88億円 (楽器+66億円、AV・IT+22億円)

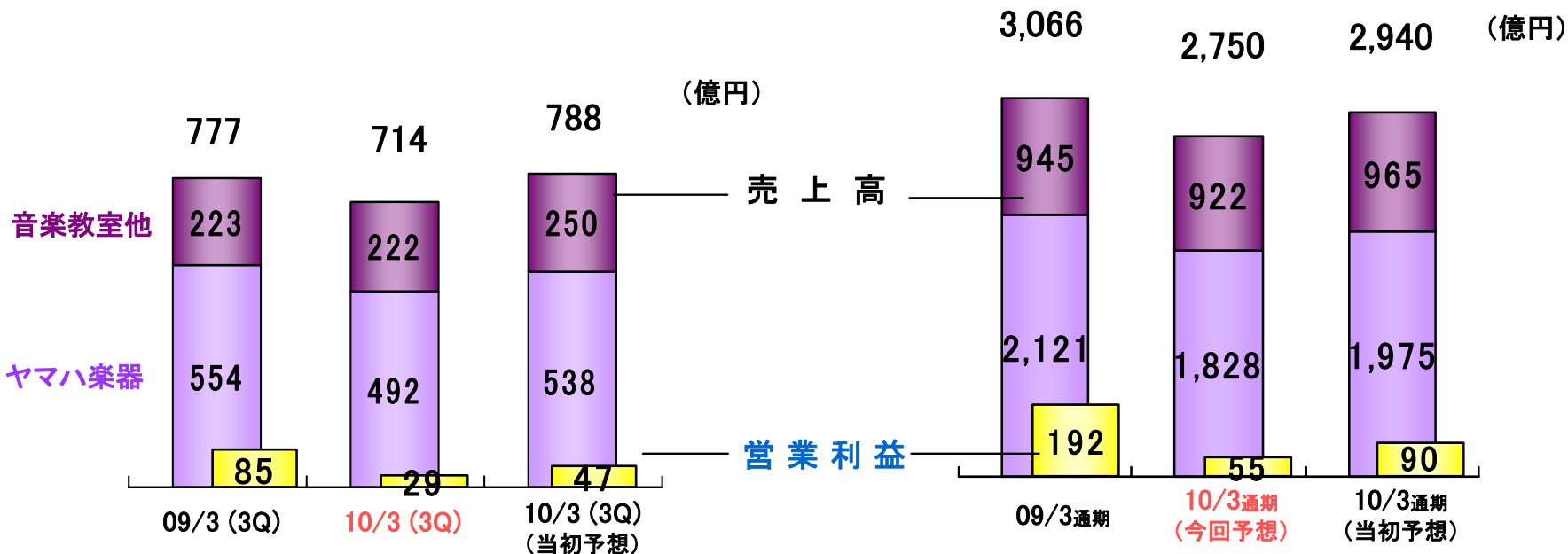
	為替影響額
前期比較	▲130億円 (楽器▲106億円、AV・IT▲25億円、 電子部品+1億円)
当初予想 比較	+53億円 (楽器+39億円、AV・IT+14億円)

3Qの状況

- ・対前年同期、対当初予想とも減収減益
- ・為替影響を除いた実質売上高は、前年同期比6% (50億円) の減収。当初予想との比較では、欧米日の先進国市場不振で実質12%の減収
- ・北米市場は鍵盤楽器を中心に底入れの兆しで対前年同期実質7%の増収。欧州、日本は景気回復に遅れ。中国はピアノを軸に2桁成長継続
- ・商品別には、ピアノ、管楽器が回復傾向。設備音響機器は引き続き低調。
- ・減産対応もあり、3Q末在庫は、当初予想を下回る水準まで低下

通期の状況と4Q重点施策

- ・通期では当初予想に対し減収減益の計画
- ・為替影響を除いた実質売上高は、新規連結38億円を含め、前期比5% (162億円) の減収計画
- ・コストダウンと経費削減の継続
- ・ピアノ、管楽器を中心に期末での在庫水準の適正化
- ・タイムリーな新商品の開発

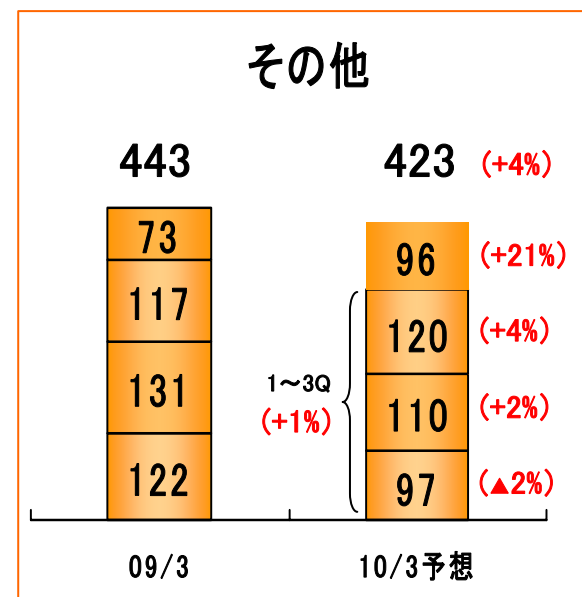
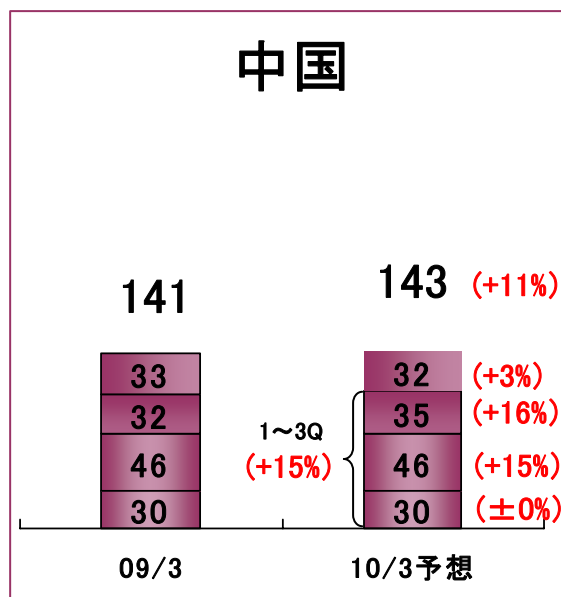
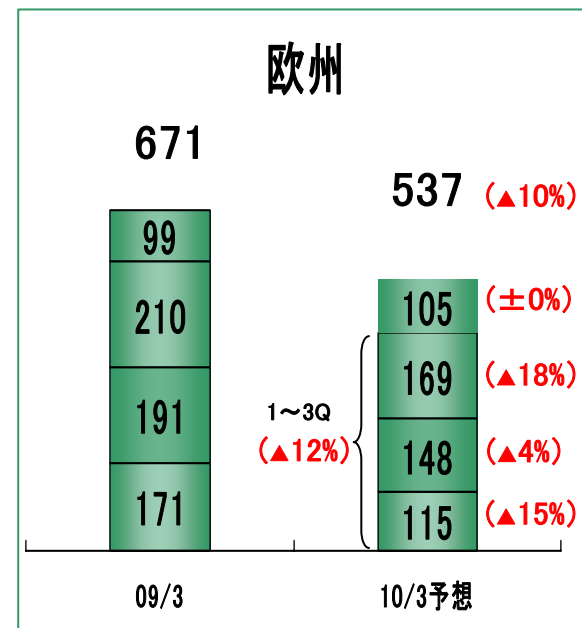
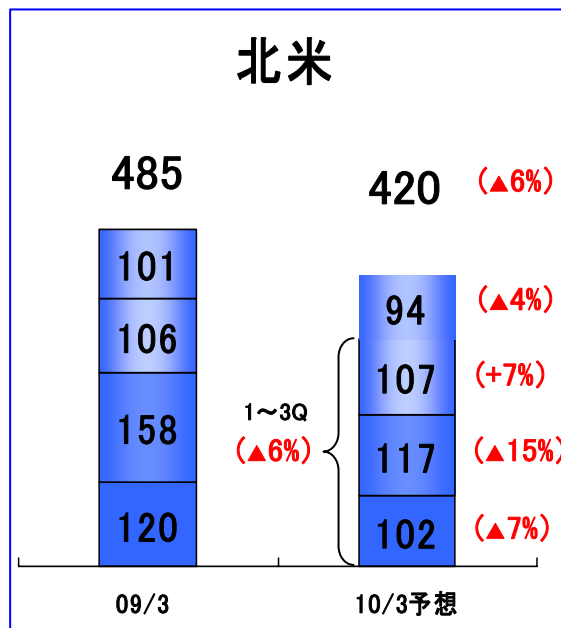
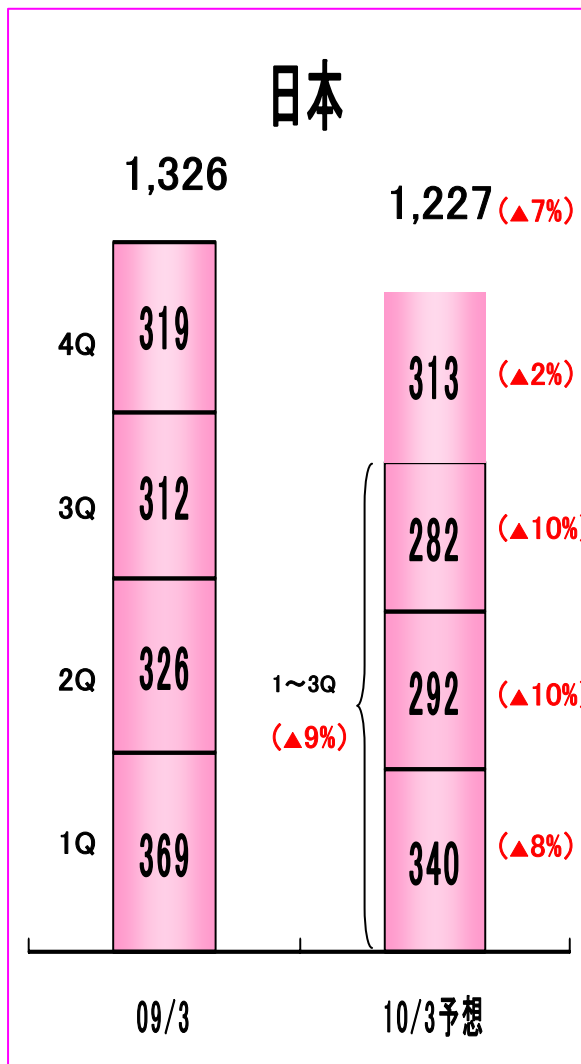


楽器事業(地域別の販売状況)



(億円)

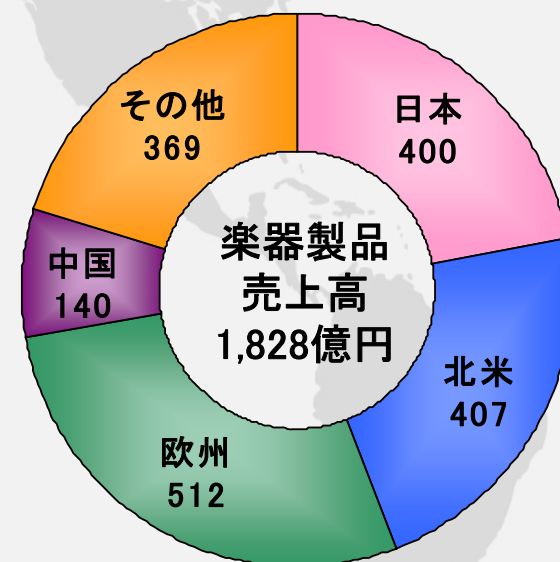
*()内は為替を除いた
実質ベースでの前期比増減



楽器事業(地域別の販売状況)

楽器地域別状況	
日本	顧客の低価格志向続くなか、中高級大型鍵盤の動き鈍い。ピアノはUPの客注残やサイレント新商品効果はあるものの、GPが低迷し前年を下回って推移。エレクトーンは前年割れ続く。普及価格帯電子ピアノの好調や、3Qに入り管楽器の前年オーバーと回復の兆しは見られるが、通期では前年を下回る見込み。
北米	3Qでは、ピアノ・電子ピアノ・ポータブルキーボードなど鍵盤楽器は前年を上回って堅調に推移するものの、高価格帯商品から低価格商品への需要シフト、教育投資抑制による管楽器・教育打楽器の低迷、また設備音響市場の投資冷え込みによる音響機器の販売低調により、通期では前年を下回る見込み。
欧州	販売店の資金繰り悪化し、ピアノや音響機器の売り上げ低迷。年末商戦ではクラビノーバCVP新モデルなどが健闘し、主要市場ドイツでは前年に迫る売り上げとなったが、東欧および南欧での経済危機の影響が大きく欧州全体では前年割れとなった。市況の低迷は当面続く見込み。
中国	ピアノ、ポータブルキーボードが好調に推移。特にピアノは2桁成長を維持し販売を牽引し、通期でも2桁成長を確保。香港市場はまだ回復とはいえない中、ヤマハは夏以降前年を上回って好調に推移。販売網整備、大都市以外への販路開拓、商品ラインアップ充実で、更に拡販を目指す。
その他の地域	オセアニア・アジア地域では電子ピアノ・ギターを中心に比較的堅調に推移。中南米は堅調なブラジルに加え、メキシコが改善しギター・音響機器を中心に順調な出荷。一方で、ロシアなどは経済回復の遅れが続いており、地域ごとにまだら模様。

楽器製品売上高の地域別内訳

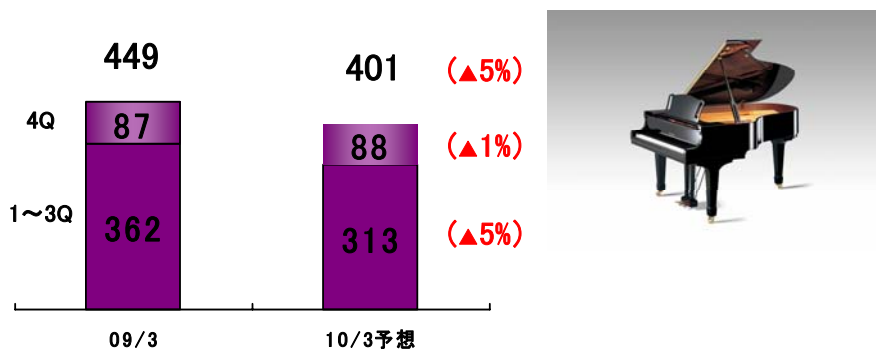


2010年3月期予想

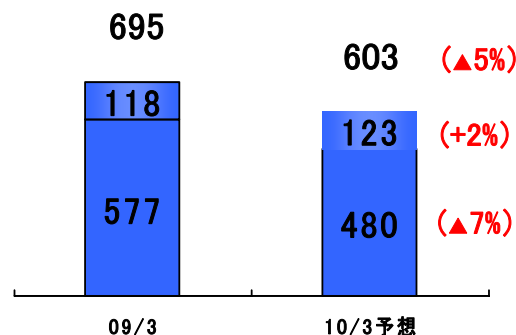
楽器製品売上高の商品群別販売状況



(億円) ピアノ



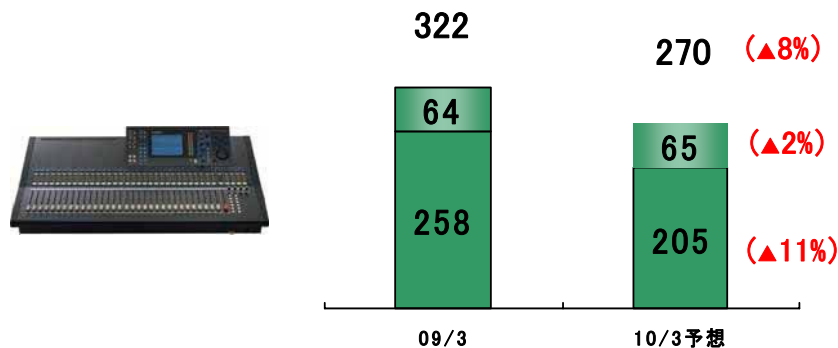
電子楽器



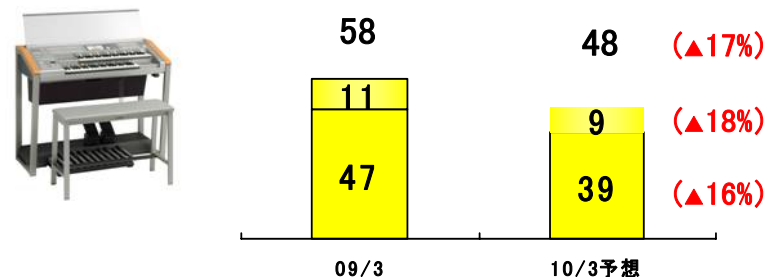
*()内は為替を除いた
実質ベースでの前期比増減



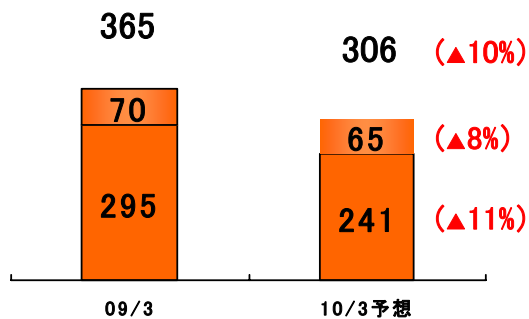
PA機器



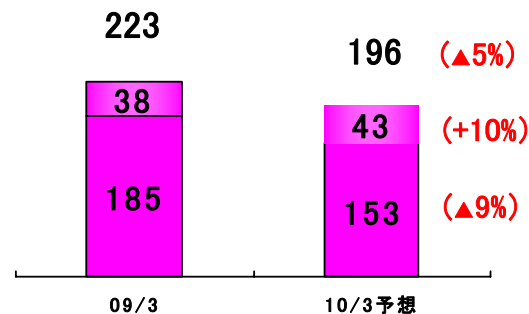
エレクトーン



管楽器



弦打楽器



楽器事業(商品群別の販売状況)



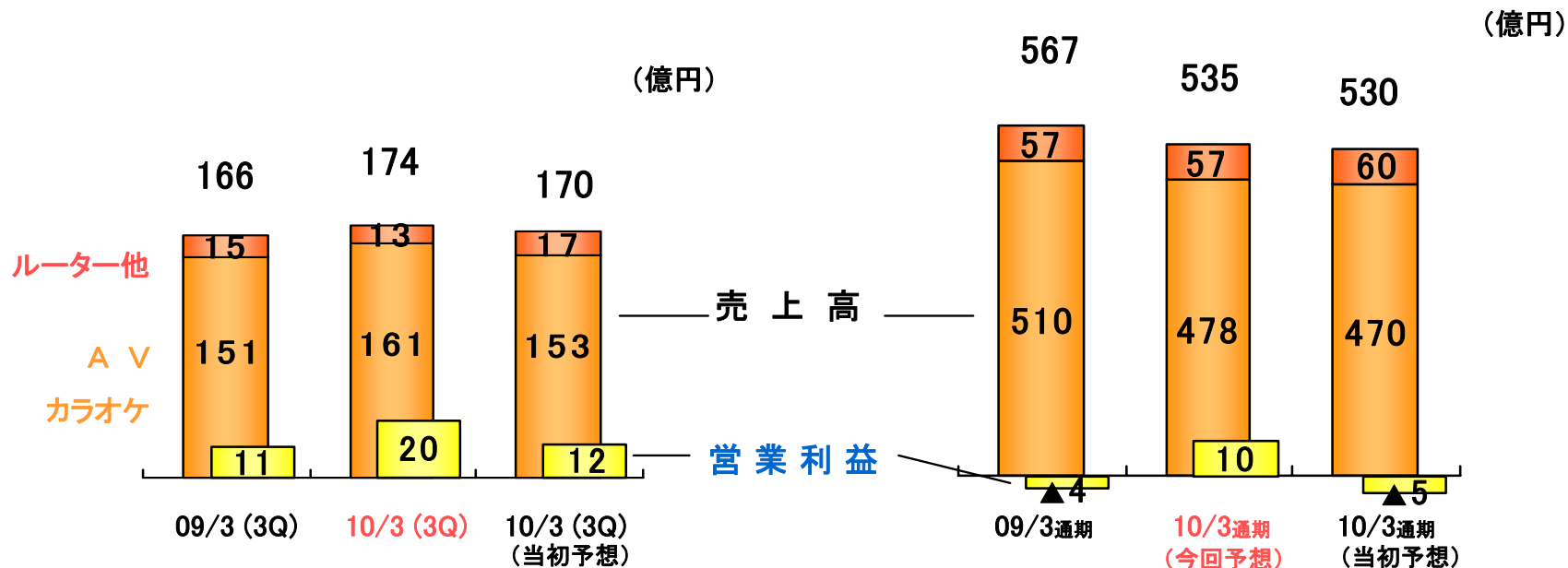
	商品群別販売状況
ピアノ	日本はGPが低迷し前年を下回る。アジアは韓国が回復せず前年に届いていない。欧州は市況悪化に加え、中古や低価格ハウスブランドピアノ台頭し、高級価格UP・GPが苦戦。北米は販売網拡大・音大対策などが奏功し底入れの兆し。中国は2桁成長を持続。全体では欧州の落込み大きく、前年を下回る見込み。
電子楽器	低価格志向と単価ダウン傾向続く。電子ピアノはARIUS・Pシリーズが好調を維持し北米・アジアパシフィック地域・中国で伸長。ポータブルキーボードは普及モデルが北米・中国で底堅く推移するものの、欧州はハイエンドモデルTyrosの落込みで苦戦。通期では北米・中国が堅調に推移するも、欧州の低迷で前年を下回る見込み。
管楽器	米・日での個人向け中高級品落込み及び北米学校レンタルビジネス不調は依然継続。税収落込みによる公共入札縮小も悪材料。欧州は独仏で販売堅調だが、イギリスは不調。アジアパシフィック地区では前年並みを確保するも、全体では前年割れの厳しい状況。期末に向け在庫軽減を目指す。
ギター・ドラム	北米・日本のギター市場に回復兆候見られず。欧州とアジアパシフィック市場は安定しているなか、アコースティックギター及びエレクトリックアコースティックギターで伸長させるも、エレキギターの不調で、全体では前年を僅かに下回る。ドラムはアコースティックドラム・電子ドラムともに総需要が落込み、前年割れとなる見込み。
PA機器	前年10月の極端な落込みからは改善傾向にはあるものの、世界的にツアー市場・設備市場の環境回復せず、予算の絞り込みに伴う低価格化も進展し主力のデジタルミキサーの苦戦続く。楽器周辺音響機器は定番ミキサーの回復もあり、アジア・中南米で堅調に推移。PA機器全体では当面市況の改善が見込めない。

3Qの状況

- ・対前年同期、対当初予想とも増収増益
- ・為替影響を除いた実質売上高は、前年同期比9%（14億円）の増収
- ・北米、欧州の3Q実質売上高は対前年同期増収
- ・営業利益は、増収と経費削減効果等により対前年同期増益。対当初予想でも為替益とコストダウンで増益
- ・主力のオーディオは国内のフロントサラウンド商品が堅調に推移
- ・3Q末在庫は、ほぼ適正水準

通期の状況と4Q重点施策

- ・通期業績を上方修正。営業利益は黒字転換の見込み
- ・為替要因を除いた実質売上高は対前期2%（10億円）の増収予想
- ・フロントサラウンド商品拡販
- ・iPodドックスピーカー等デスクトップオーディオ、ゼネラルオーディオ新商品の強化拡大
- ・製品内製化促進と材料コストダウンによる製造原価低減

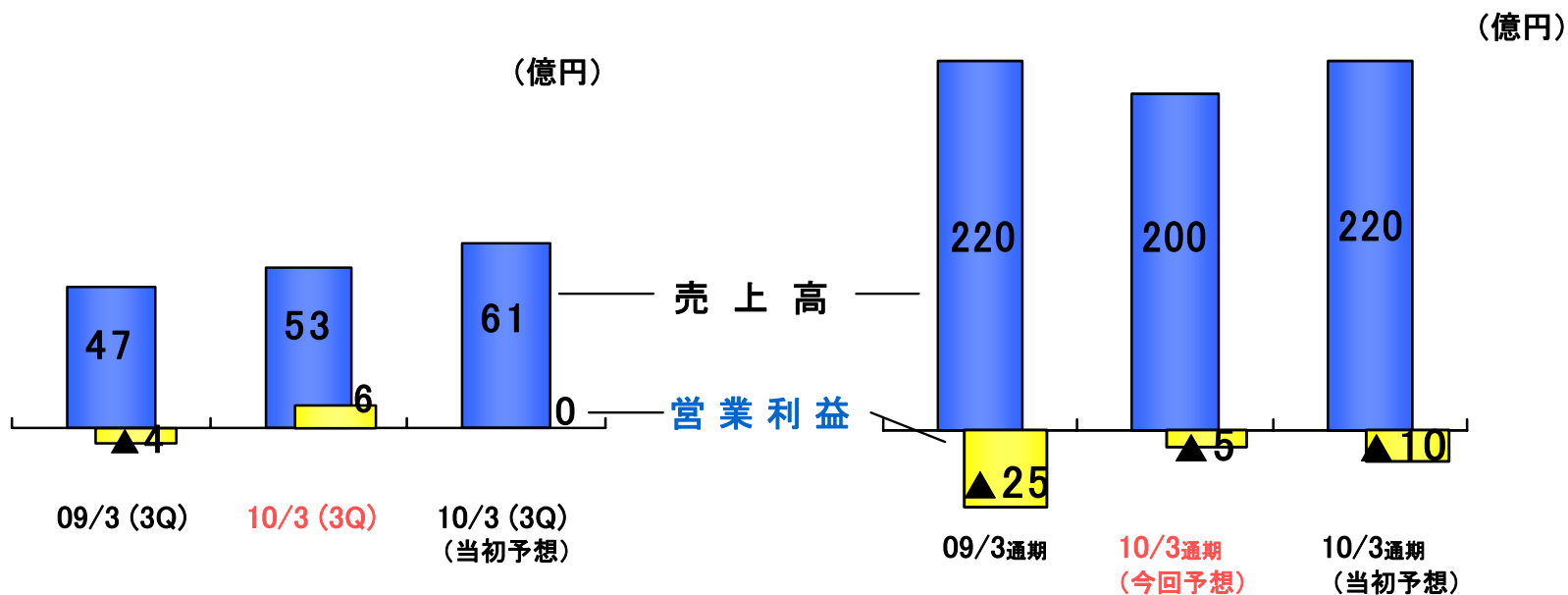


3Qの状況

- ・対前年同期増収増益。対当初予想では減収増益
- ・営業利益は、前期実施の固定資産の減損による減価償却費の減少、売上構成の変化等により、8四半期ぶりに黒字化
- ・携帯電話用音源LSIの減少継続。アミューズメント、デジタルアンプ販売増

通期の状況と4Q重点施策

- ・対当初予想減収増益。売り上げ未達は商品開発の遅れが主因
- ・固定費削減による収益力強化
- ・デジタルアンプ、コーデック新商品の開発、市場投入

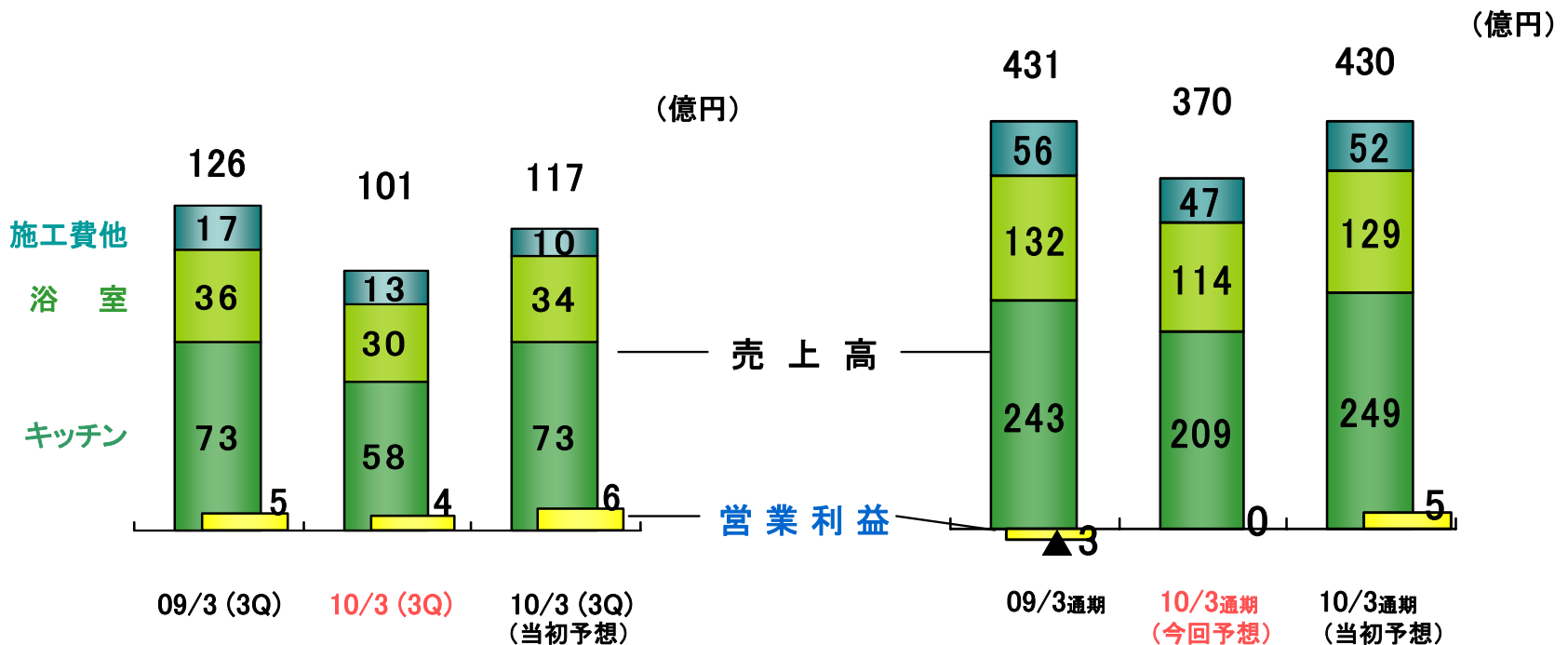


3Qの状況

- ・対前年同期、対当初予想とも減収減益
- ・新築住宅着工数の減少で大幅な減収となるものの、徹底した経費の削減で小幅な減益
- ・投資ファンドとのリビング事業譲渡交渉開始

通期の状況と4Q重点施策

- ・通期売上高、営業利益とも当初予想を下方修正
- ・リフォームビジネス強化継続
(リフォームに強い販路開拓、リフォーム用部材拡販)
- ・経費削減と材料コストダウン、原価の低減による一層の損益分岐点引き下げ



その他の事業

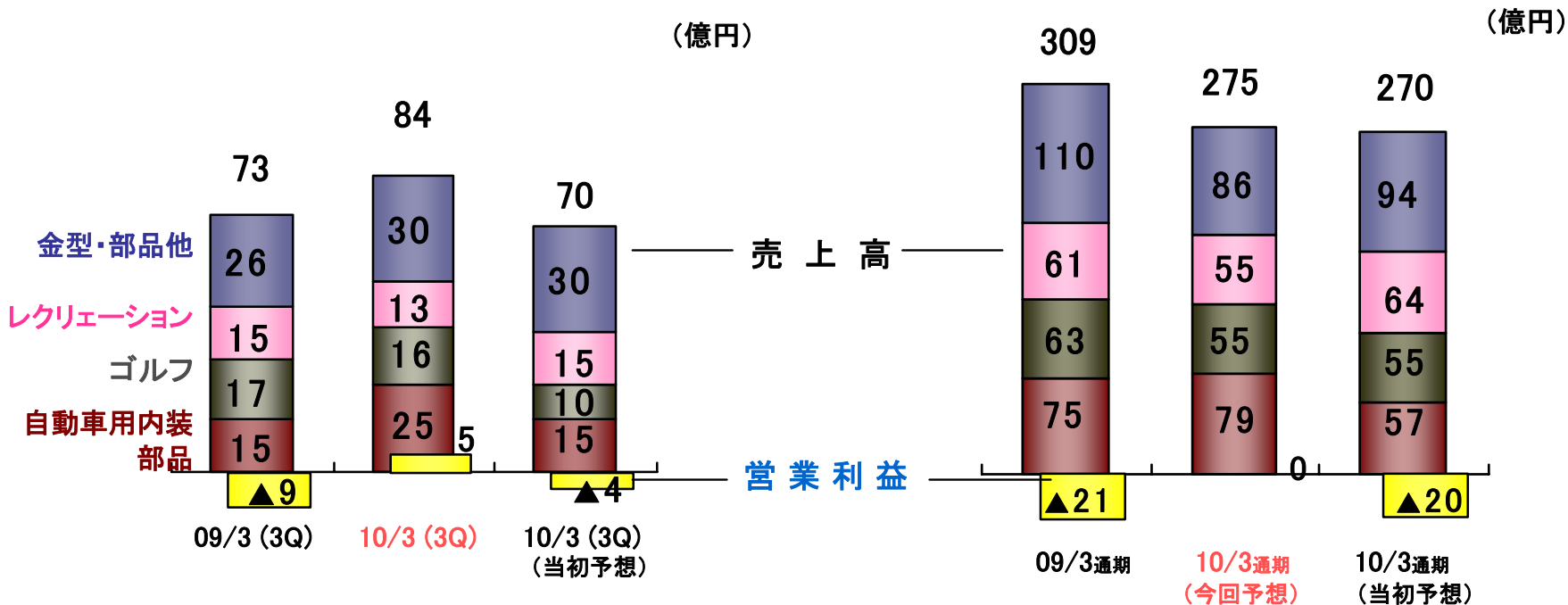


3Qの状況

- ・対前年同期、当初予想とも増収増益
- ・自動車用内装部品、マグネシウム部品などの部品事業が、市況の回復で対前年同期大幅な増産
- ・ゴルフは新商品好調
- ・レクリエーションは集客の減少で対前年同期、当初予想とも減収

通期の状況と4Q重点施策

- ・当初予想を上方修正。営業黒字化を目指す
- ・自動車用内装部品は製造原価低減による損益分岐点引き下げ
- ・ゴルフは新商品の一層の拡販
- ・レクリエーションは、集客確保とコスト削減により収益改善を目指す
- ・マグネシウム部品のスムーズな生産終了



設備投資・減価償却費/研究開発費

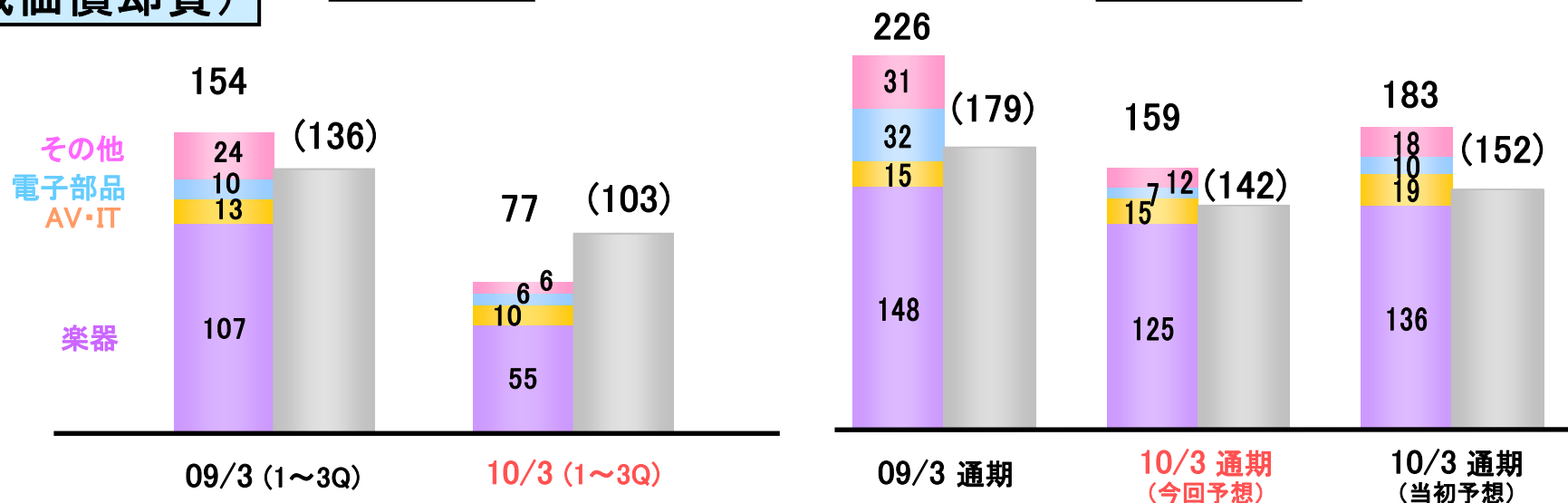


設備投資 (減価償却費)

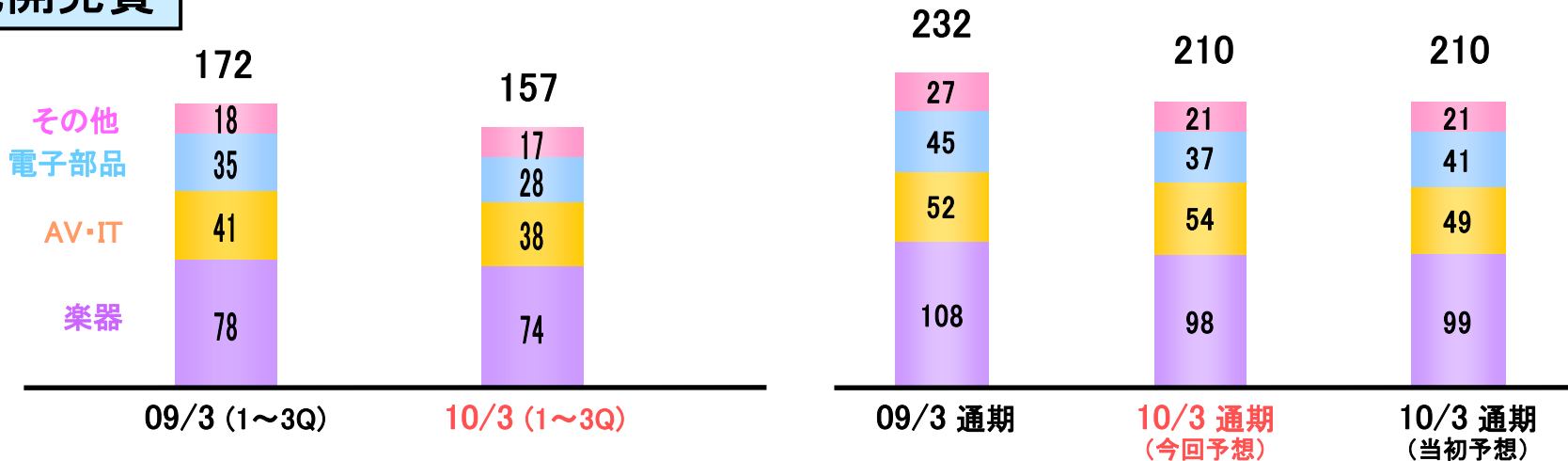
1~3Q

通期

(億円)

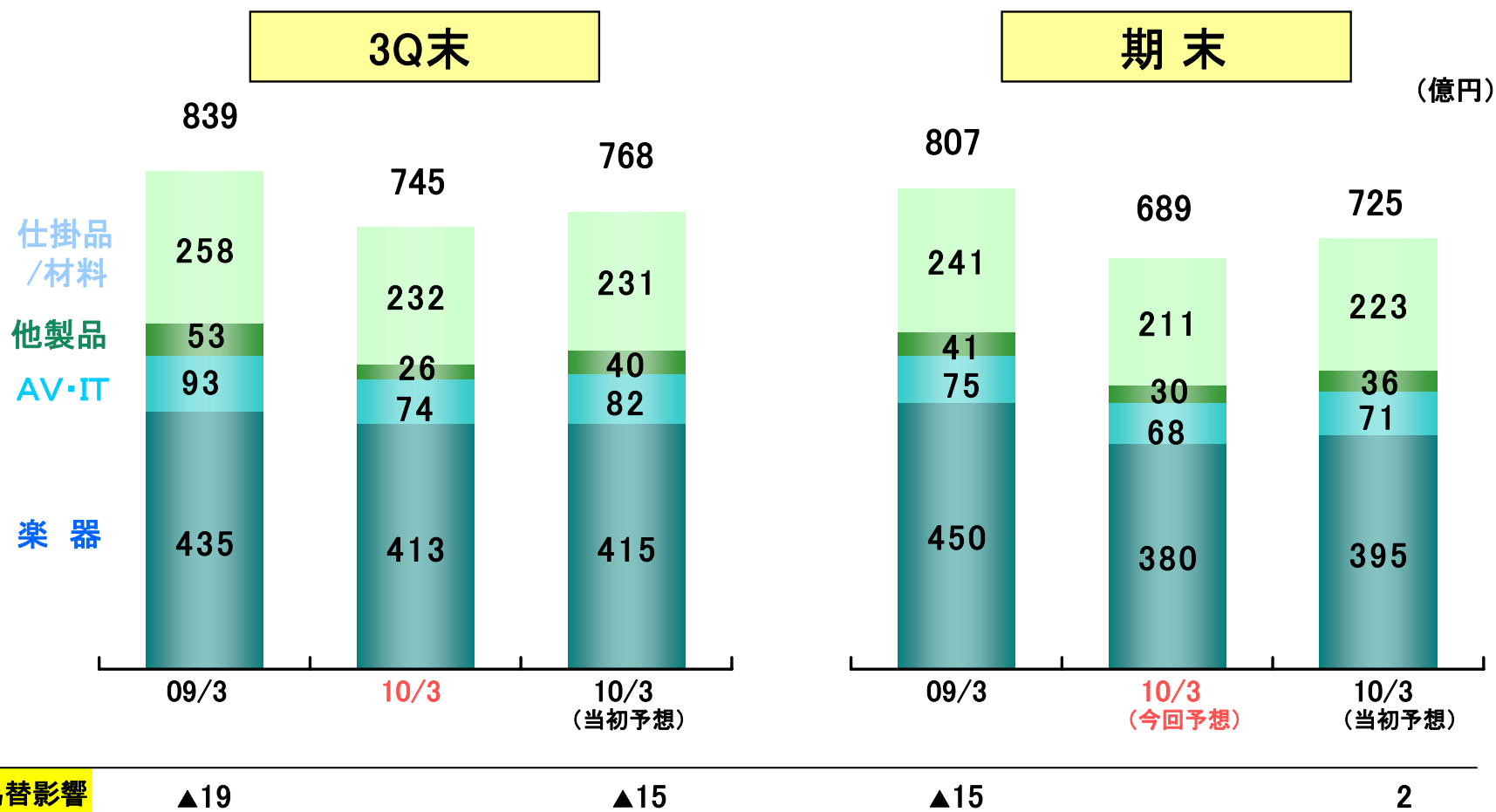


研究開発費



棚卸資産

- 12月末在庫額は、為替要因を除けば実質113億円の減少。
また、当初予想に対しても、為替影響を除けば、実質38億円の減少
- 3月末在庫は、当初予想に対し実質34億円の減少
(対前年同期では実質133億円の減少)



予想貸借対照表



(億円)

	3Q末			期末予想		
	08/12末	09/12末	増減	09/3末	10/3末	増減
現預金	408	466	58	414	524	110
売上債権	660	636	▲24	505	559	54
棚卸資産	839	745	▲94	807	689	▲118
他流動資産	339	175	▲163	295	186	▲109
固定資産	2,235	2,095	▲140	2,069	2,134	65
資産計	4,481	4,116	▲365	4,090	4,092	2
仕入債務	309	267	▲42	256	255	▲1
借入金	279	167	▲111	192	149	▲43
リゾート預託金	169	164	▲5	167	164	▲3
他負債	924	935	11	957	987	30
純資産計	2,800	2,583	▲217	2,518	2,537	19
負債純資産計	4,481	4,116	▲365	4,090	4,092	2

付属資料

2010/3期 3Q営業外損益、特別損益



	09/3(3Q)実績	10/3(3Q)実績	10/3 (3Q)当初予想 (億円)
営業外損益			
金融収支	1	1	▲ 1
その他	▲13	▲5	▲9
計	▲12	▲4	▲10
特別損益			
固定資産処分損益	▲ 1	▲ 1	0
その他	▲ 2	0	0
計	▲ 3	▲ 1	0
法人税他			
法人税等	▲1	9	5
法人税等調整額	24	10	11
少数株主利益	1	1	▲ 1
計	24	20	15

2010/3期 通期営業外損益、特別損益



09/3通期実績

10/3通期今回予想

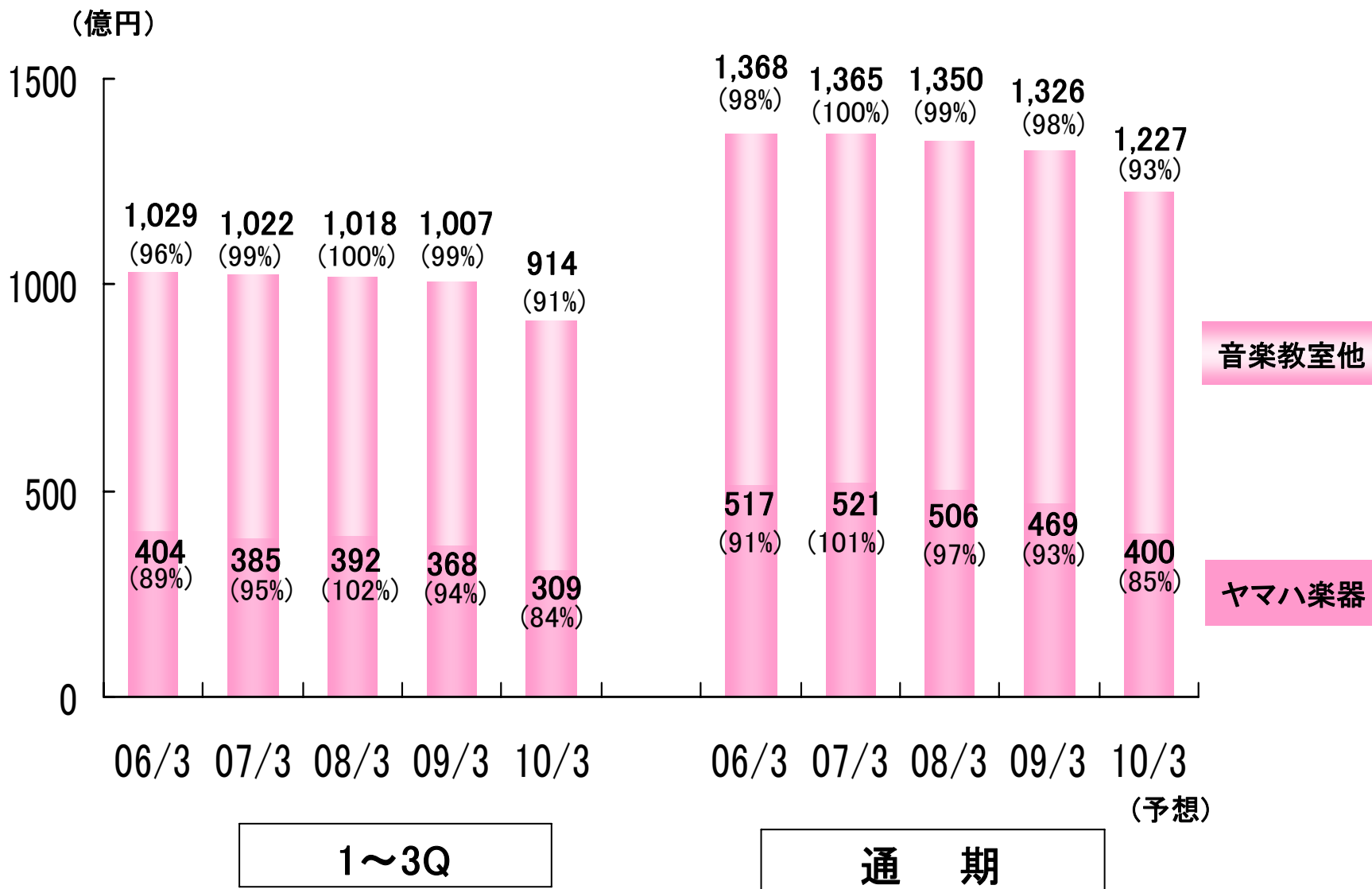
10/3通期当初予想

	09/3通期実績	10/3通期今回予想	10/3通期当初予想
(億円)			
営業外損益			
金融収支	20	3	0
その他	▲38	▲23	▲30
計	▲18	▲20	▲30
特別損益			
固定資産処分損益	▲7	1	▲5
その他	▲235	▲6	▲5
計	▲242	▲5	▲10
法人税他			
法人税等	38	25	24
法人税等調整額	49	22	▲4
少数株主利益	▲3	3	0
計	84	50	20

・ヤマハ発動機配当金 11

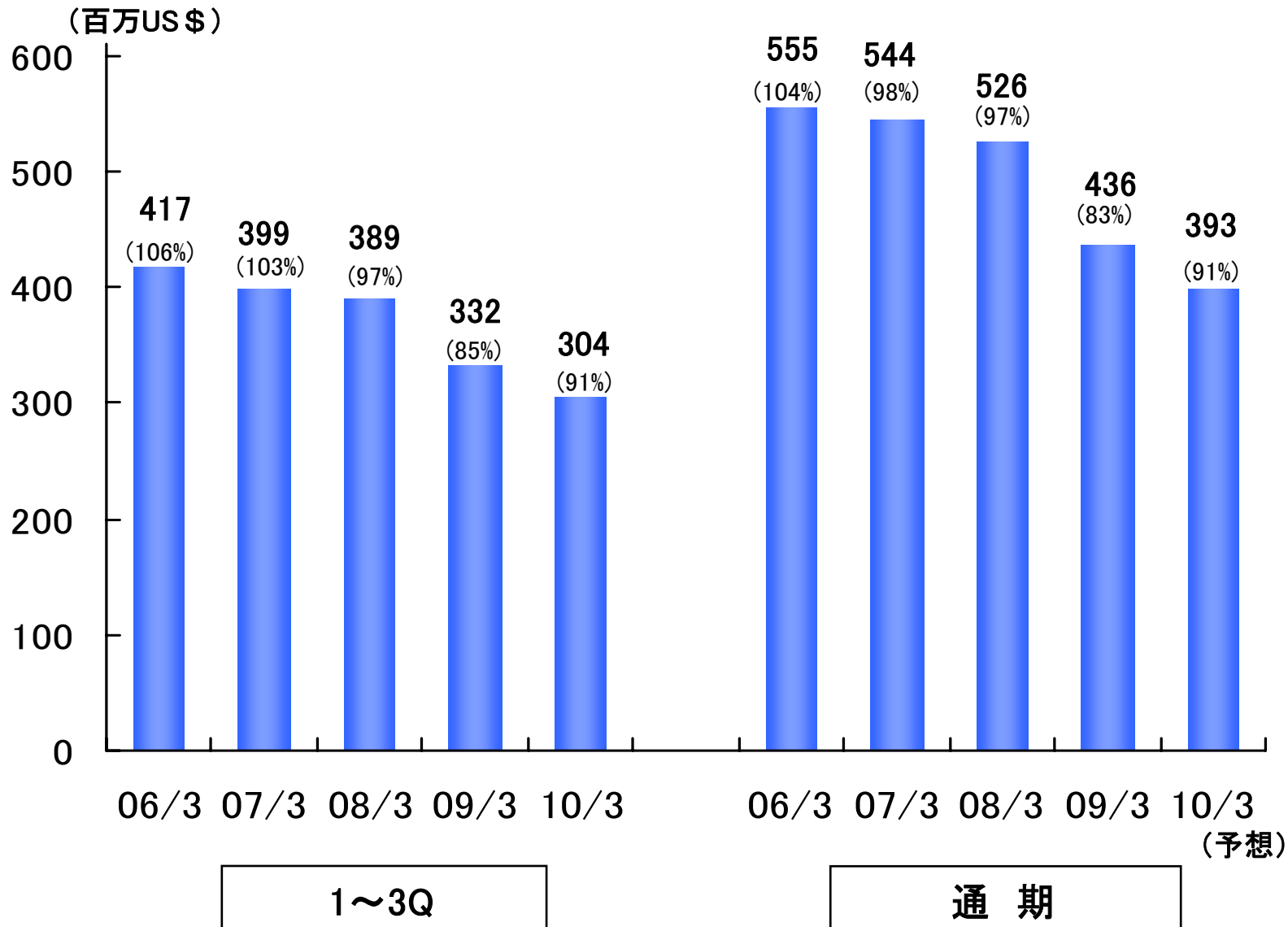
・減損損失 ▲153
 ・構造改革費用 ▲49
 ・関係会社出資金評価損 ▲33

日本市場のヤマハ楽器・PA機器販売状況



()内は前年同期比

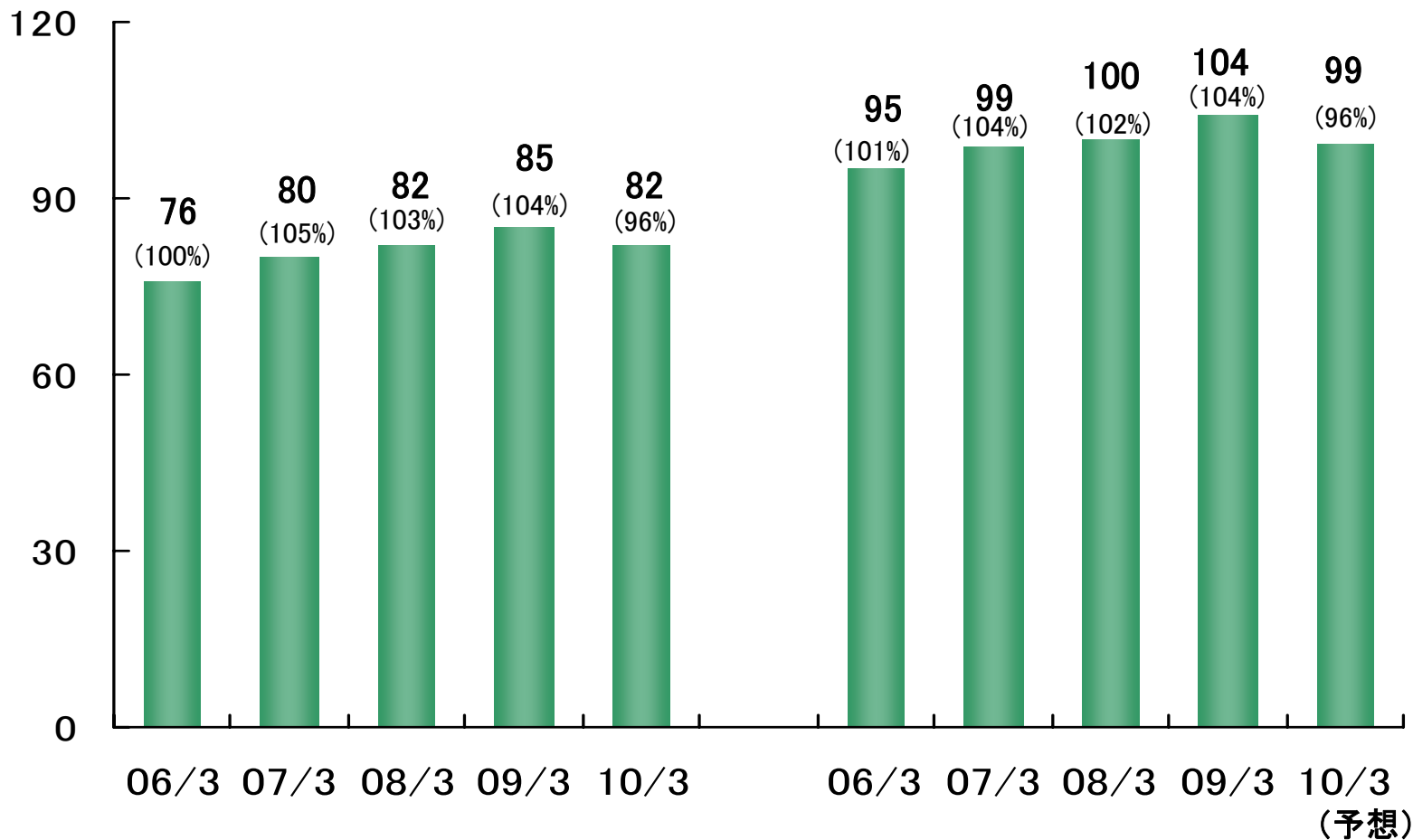
アメリカ市場のヤマハ楽器・PA機器販売状況



ドイツ市場のヤマハ楽器・PA機器販売状況



(百万ユーロ €)



1~3Q

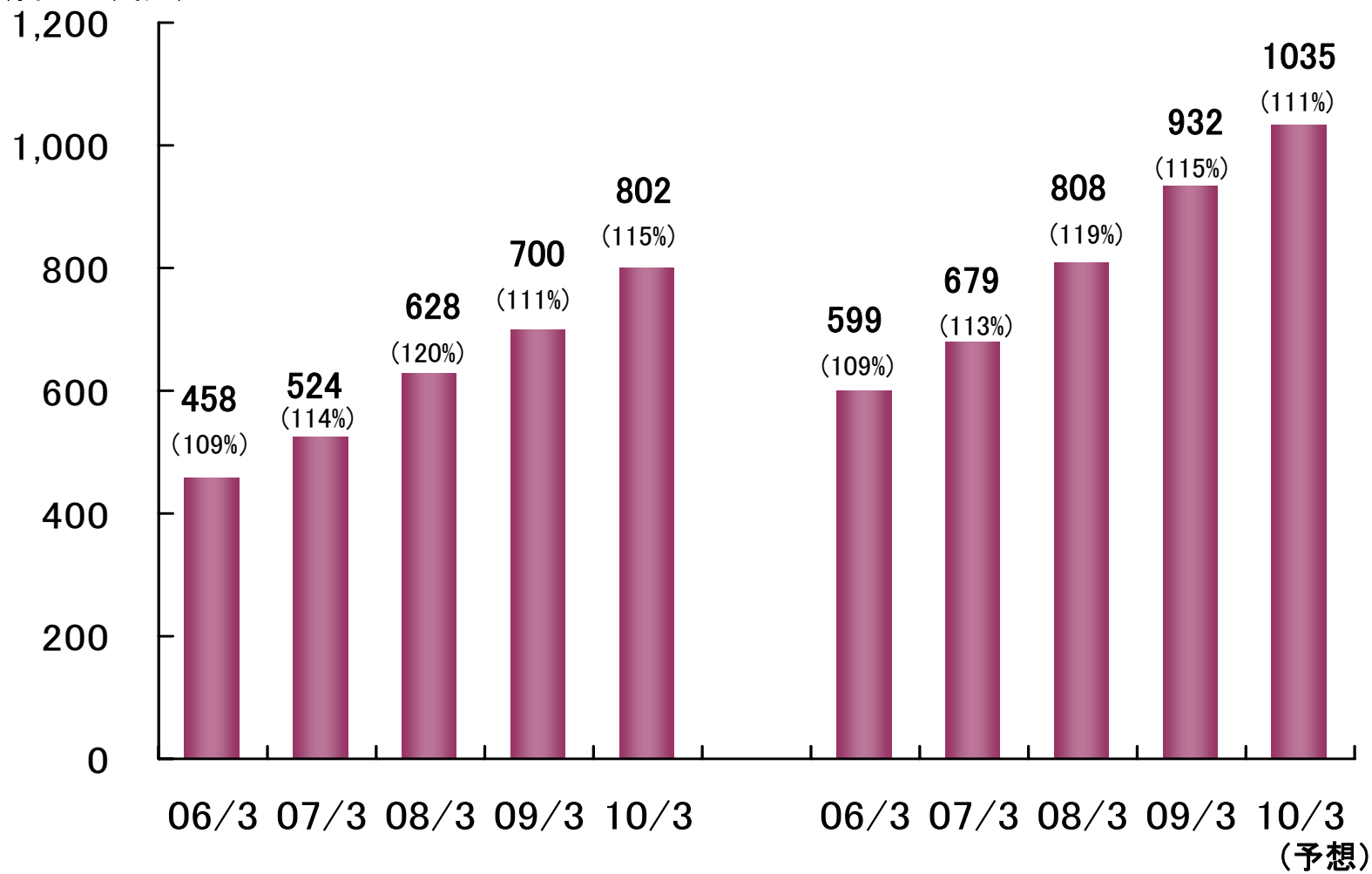
通期

()内は前年同期比

中国市場のヤマハ楽器・PA機器販売状況



(百万人民元)

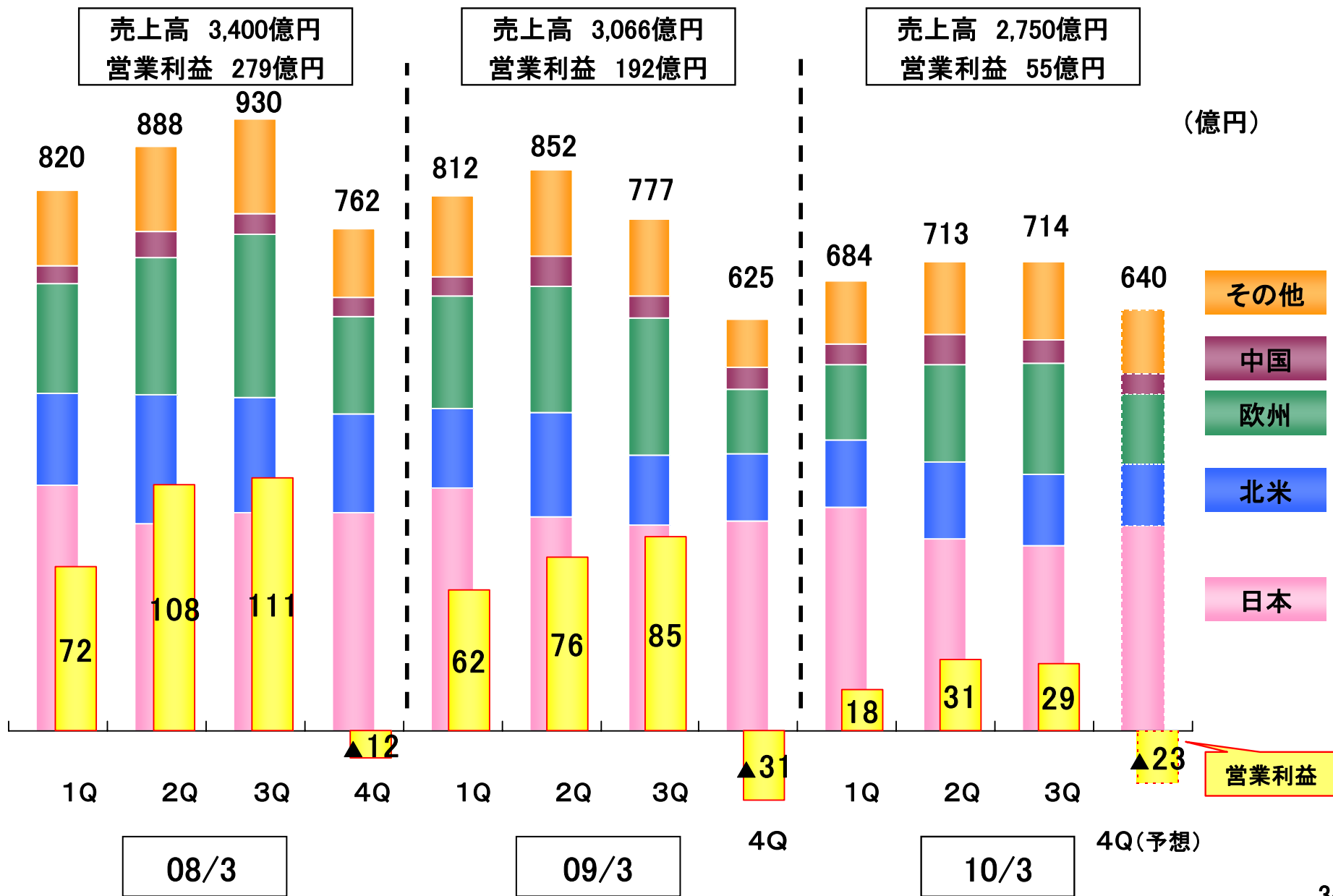


1~3Q

通 期

()内は前年同期比

楽器四半期別売上高／営業利益



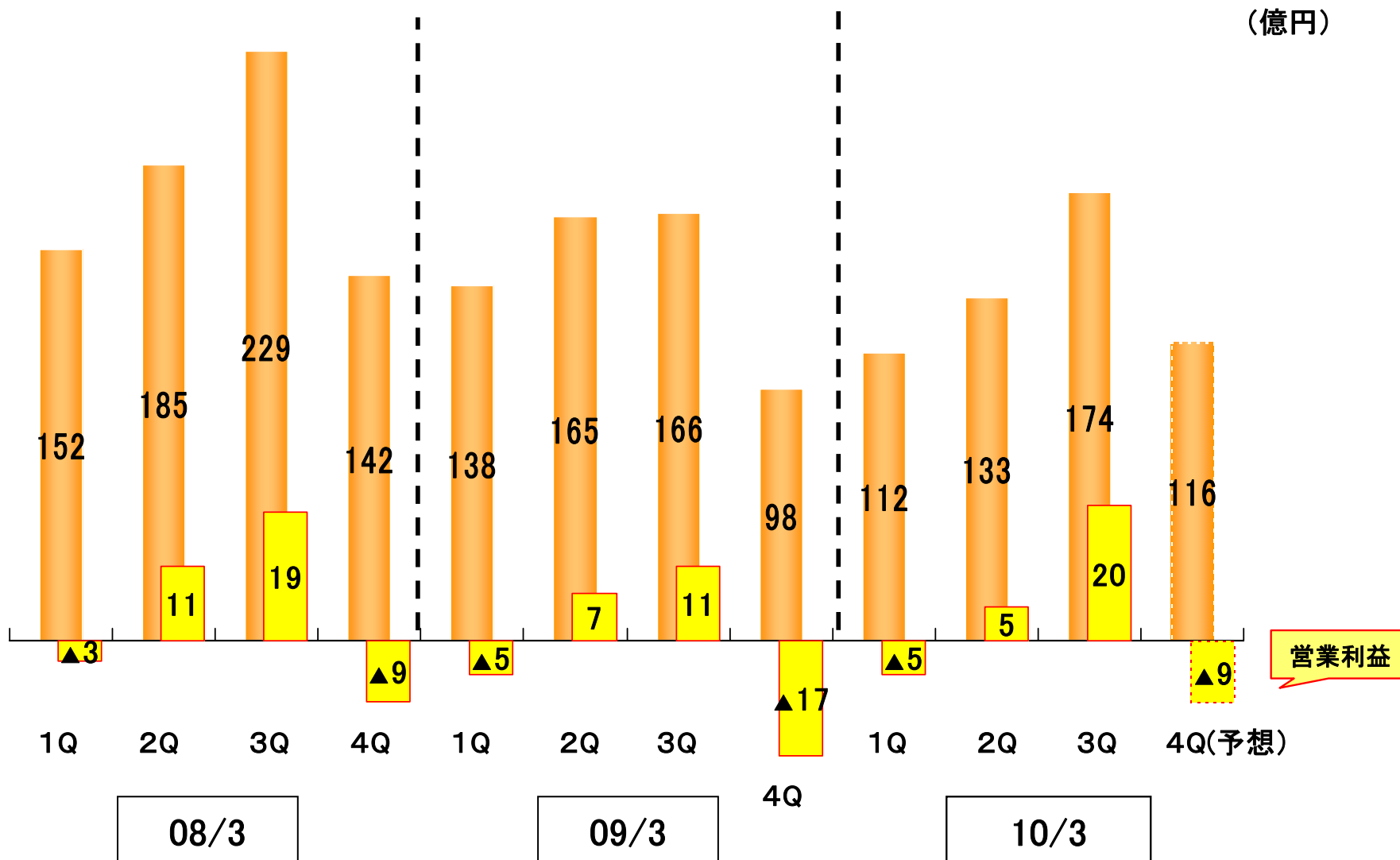
AV/IT四半期別売上高／営業利益



売上高 708億円
営業利益 18億円

売上高 567億円
営業利益 ▲4億円

売上高 535億円
営業利益 10億円



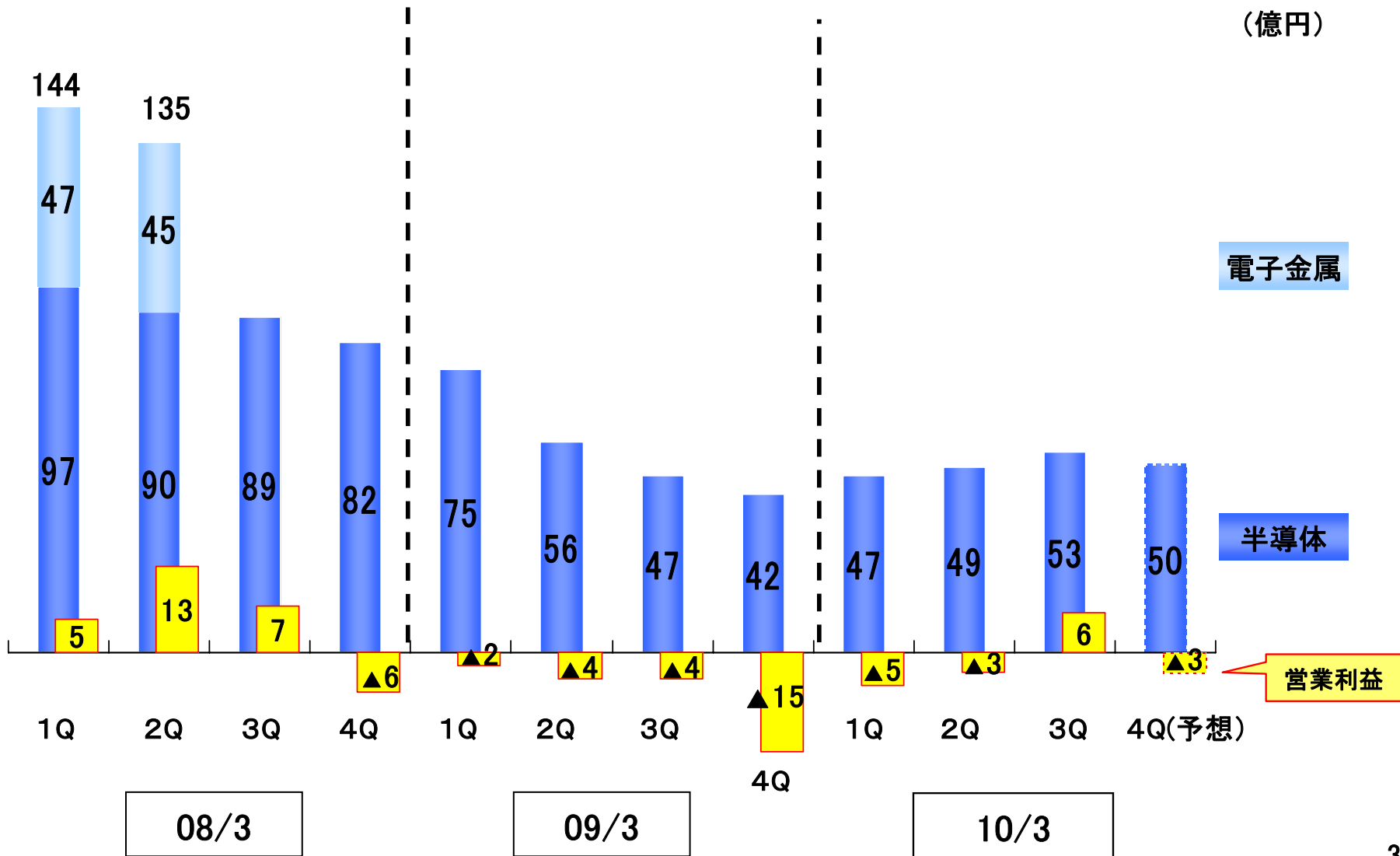
電子部品四半期別売上高／営業利益



売上高 450億円
営業利益 19億円

売上高 220億円
営業利益 ▲25億円

売上高 200億円
営業利益 ▲5億円



リビング四半期別売上高／営業利益

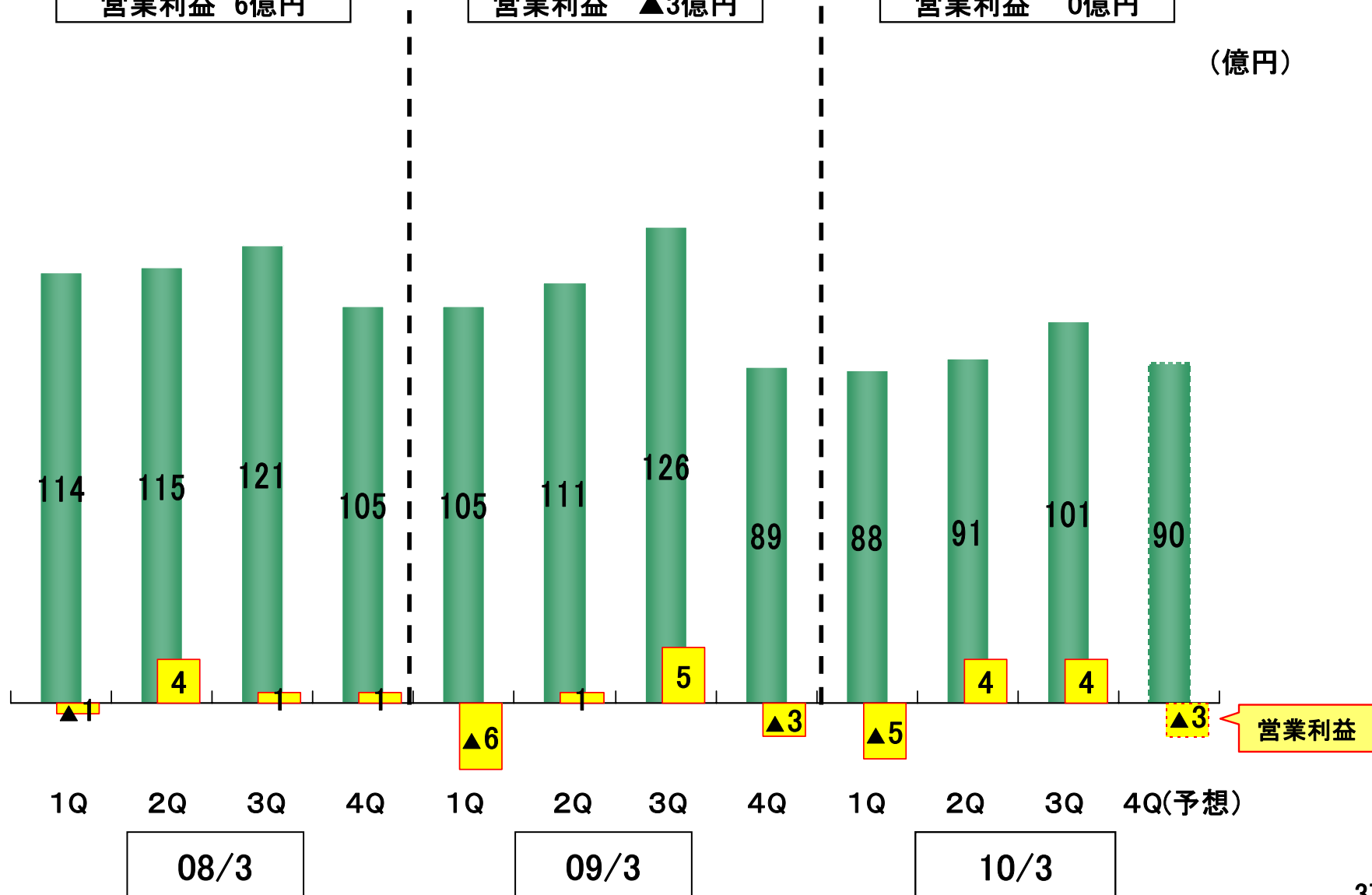


売上高 455億円
営業利益 6億円

売上高 431億円
営業利益 ▲3億円

売上高 370億円
営業利益 0億円

(億円)



営業利益

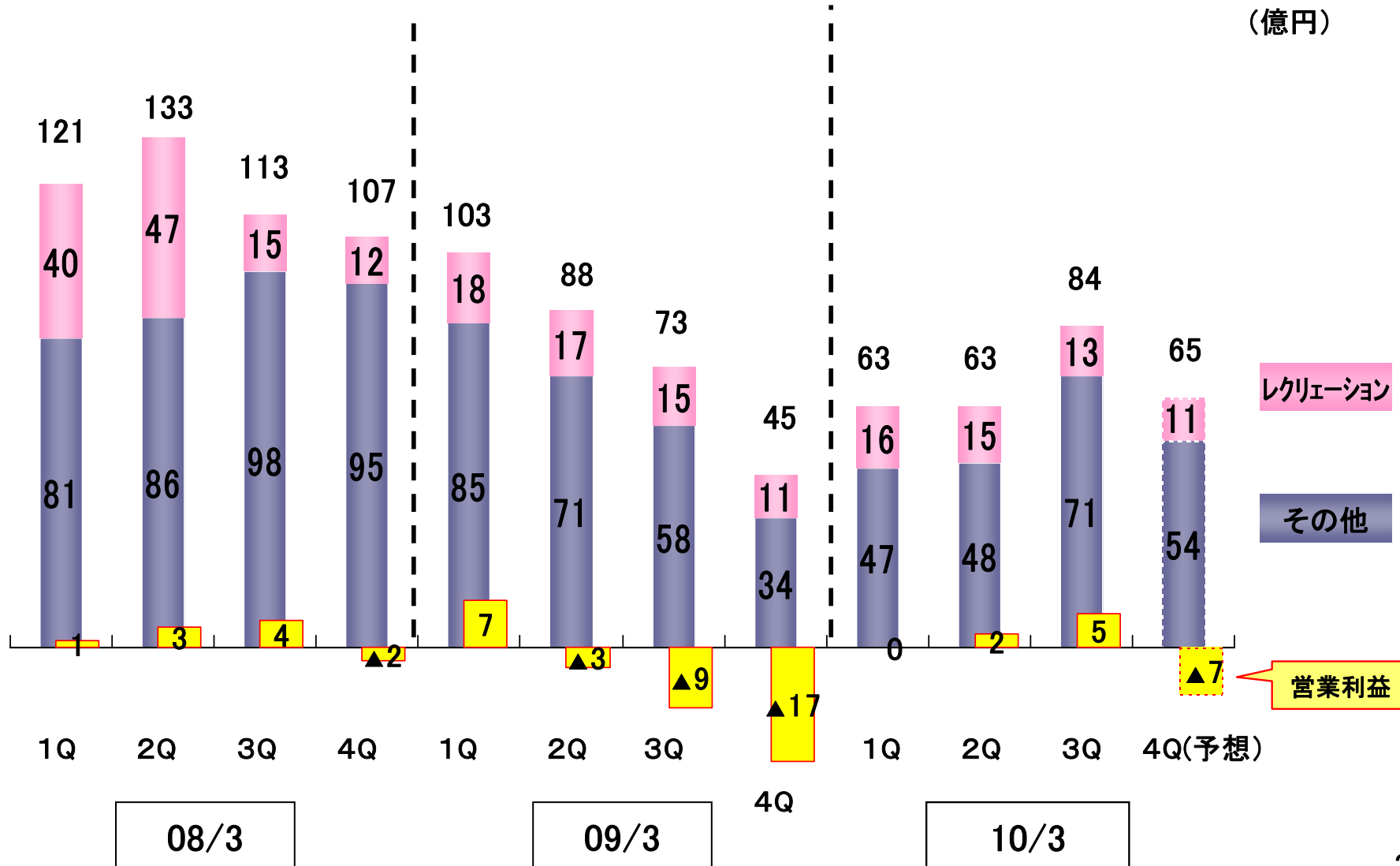
その他四半期別売上高／営業利益



売上高 474億円
営業利益 6億円

売上高 309億円
営業利益 ▲21億円

売上高 275億円
営業利益 0億円



この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、ヤマハ及びヤマハグループ各社の現時点での入手可能な情報に基づいており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、米ドル、ユーロを中心とする為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。